



静岡県富士山世界遺産センター
年報 2022.4－2023.3

● 目 次 ●

館長挨拶	1
1 概 要	
1-1 沿革	2
1-2 写真で見る2022.4-2023.3	4
2 活動状況	
2-1 永く守る	
2-1-1 静岡県認定富士山世界遺産ガイド養成	8
2-1-2 サポートボランティア制度	9
2-1-3 富士山保全協力金	10
2-1-4 富士山安全対策	11
2-2 楽しく伝える	
2-2-1 常設展示リニューアル	12
2-2-2 企画展	14
2-2-3 アトリウム展示活動	21
2-2-4 教育旅行受入	23
2-2-5 出前講座	25
2-2-6 館内講座	31
2-2-7 世界遺産セミナー	33
2-2-8 富士山世界遺産コラム	35
2-2-9 ホームページ・SNS・YouTubeによる情報発信	36
2-2-10 メール会員	37
2-3 広く交わる	
2-3-1 地域貢献・広域連携（富士山ネットワーク）	38
2-3-2 視察受入	39
2-4 深く究める	
2-4-1 巡礼路調査	40
2-4-2 研究活動	42
2-4-3 資料収集	51
3 施設・組織・予算	
3-1 施設	59
3-2 組織	62
3-3 予算	63
4 資 料	
4-1 来館者数データ	64
4-2 2022年度の休館日	64
4-3 新型コロナウイルス感染症対策	65
4-4 ミュージアムショップ・カフェリニューアル	67
4-5 公式オリジナルグッズ	69
4-6 報道実績	71
4-7 来館者アンケート結果	73
4-8 条例・規則	78

館長挨拶

ご挨拶

静岡県富士山世界遺産センターは、去る2022年12月23日に開館5周年を迎えました。

2013年の富士山世界文化遺産登録を受け、富士山の顕著な普遍的価値を後世に継承し、守っていくための拠点施設として、2017年12月23日に開館し、「聖なる山」、「美しき山」といった常設展示だけではなく、「富士山の曼荼羅」やシリーズ「江戸文化のなかの富士山」などの実物展示を中心とした企画展を開催することにより、この5年間に115万人を超える来館者の方々をお迎えしてきました。御来館いただいた皆様には、富士山に親しみ、信仰の対象、また芸術の源泉としての富士山の素晴らしさに触れていただけたのではないかと考えております。

開館5周年を記念して開催したコンサートでは、広く一般の方にも御参加いただき、開館1周年記念でも演奏いただいた国際的ヴァイオリニストの澤和樹様を中心に、富士山静岡交響楽団の演奏家で特別に編成されたクワルテット・ミナナーロによる演奏をお楽しみいただきました。

また、富士宮市地元商店街の皆様の御協力もいただきながら、ライトアップや記念フラッグの掲揚など様々な事業を展開し、地域全体で盛り上げることができました。

展示では、過去の富士山噴火などから、富士山と人との未来を考える展示ゾーン「受け継ぐ山」をリニューアルしました。これまでなかった富士山に関する実物展示として、新たに、江戸時代の宝永噴火の噴出物を展示することで、噴火の進展とともに移り変わる宝永噴火の様相とその凄まじさをリアルに感じられるフロアに生まれ変わりました。

2022年は、センターにとって節目の年となりましたが、引き続き2023年は、富士山の世界遺産登録10周年の節目にあたります。

当センターでは、10周年を記念し「聖なる山」をテーマとした国際シンポジウムを7月に開催し、これまでの研究成果をお伝えするとともに、今後の富士山の保全や後世への継承について議論を深めたところです。

このほか、企画展などの開催により、多くの方々に、古来から人々を魅了し続けてきた富士山の価値を再確認いただける機会を提供していくことで、常に進化する博物館として富士山の普遍的価値の継承に邁進してまいります。

ここに、センターの2022年度の足跡を年報という形で取りまとめ、富士山という偉大な存在の持つ価値を、次の時代に繋いでいくための記録の一環と致しました。御活用いただければ幸いに存じます。

令和5年9月

静岡県富士山世界遺産センター

館長 遠山 敦子



1

概要

1-1 沿革

2011年10月	基本構想策定委員会を設置
2012年 3 月	基本構想を策定
2012年11月	基本計画策定アドバイザーを設置
2013年 3 月	基本計画を策定
2013年 6 月	世界文化遺産登録決定
2013年 8 月	建設地を富士宮市宮町に決定
2014年 3 月	設計者を株式会社坂茂設計事務所へ決定 展示基本計画を策定
2015年 3 月	実施設計完了
2016年 3 月	建築工事着手
2017年 2 月	2017年12月23日開館を公表
2017年 7 月	建築工事完成
2017年10月	設置管理条例議決 展示工事完成
2017年12月	12月22日開館記念式典開催 12月23日開館
2018年 2 月	入館者10万人達成
2018年 3 月	シアター新番組「地の巻」上映開始
2018年 7 月	入館者30万人達成
2018年12月	入館者50万人達成
2019年 1 月	3階「育む山」展示リニューアル
2019年 3 月	シアター新番組「宙の巻」上映開始
2019年 8 月	富士山世界遺産センターふじっぴー誕生
2019年11月	三笠宮彬子女王殿下 地方事情御視察のため御来館
2020年 3 月	富士山世界遺産センター公式ハンドブック発行
2020年 4 月	新型コロナウイルス感染症拡大のため臨時休館（4月14日から5月31日まで）
2021年 2 月	2月20日観覧料支払いへのキャッシュレス決済導入 2月28日来館者100万人達成
2021年11月	研究・収蔵スペースの増築工事完成
2022年 4 月	ミュージアムショップ・カフェリニューアル
2022年 9 月	高円宮妃久子殿下御来館
2022年12月	12月13日開館5周年記念式典・コンサート開催 12月23日開館5周年

● 基本コンセプト及び機能

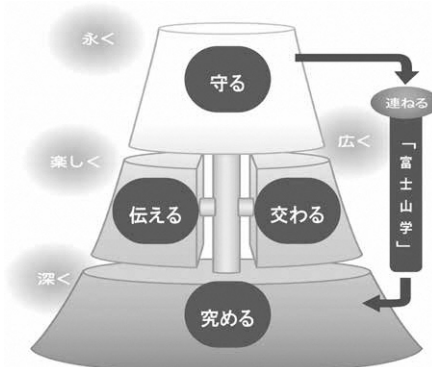
静岡県富士山世界遺産センターは、世界遺産条約第5条（e）の趣旨に則り、富士山が持つ顕著な普遍的価値を次世代に継承し、「永く守る」拠点施設として整備された。

富士山を「永く守る」ためには、資産を適切に保護・管理するとともに、多くの人々が世界文化遺産としての富士山の価値について理解を深めることが必要となる。

そのため、富士山を「永く守る」活動に加え、富士山の価値を「楽しく伝える」活動やセンターの活動を通じて人々が「広く交わる」機会を創出する活動を展開する。さらに、これら「永く守る」「楽しく伝える」「広く交わる」の活動内容を奥深いものとするため、富士山の自然や歴史、文化等を「深く究める」活動を展開する。

また、他の研究機関等と連携した「深く究める」活動の成果及びセンターの諸活動を「連ねる」ことで、「富士山学」を体系化し、世界文化遺産「富士山」の価値を探究する活動を継続して実施する。

＜基本コンセプト及び機能概念図＞



1-2 写真で見る2022.4-2023.3

高円宮妃久子殿下御来館

日程：2022年9月4日



静岡県富士山世界遺産センター開館5周年記念事業

開館5周年記念ライトアップ（富士宮市連携事業）

会期：2022年11月19日～2022年11月23日



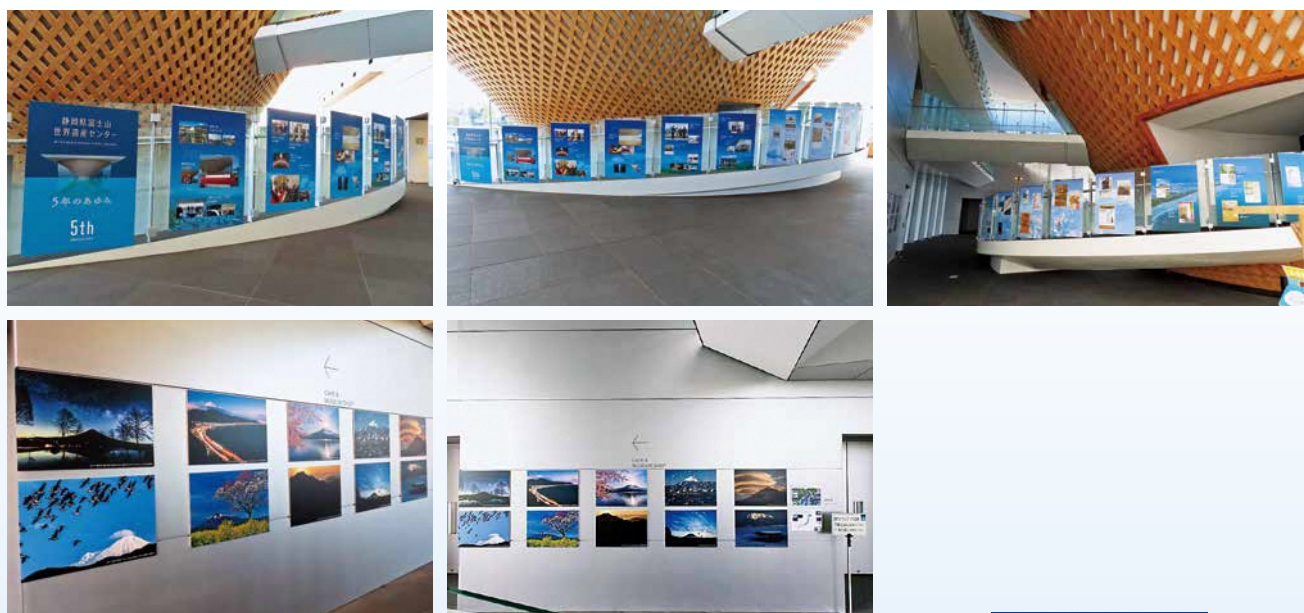
静岡県富士山世界遺産センター開館5周年記念式典・コンサート

日程：2022年12月13日



センター5年のあゆみ及び歴代ふるさと富士写真コンテスト グランプリ作品展パネル展

会期：2023年2月23日～2023年3月26日



開館5周年記念フラッグ掲揚



企画展

暮らしと遊びのなかの富士山 —林直輝・紙鳶洞コレクション—

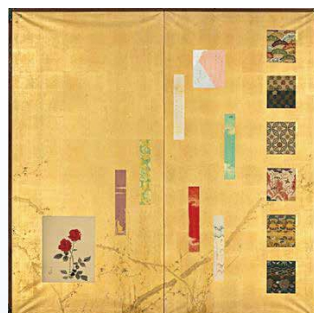
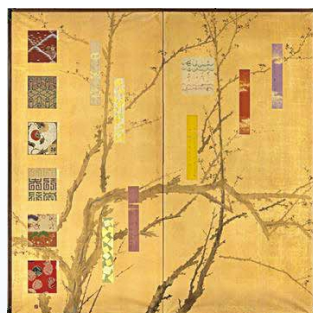
会期：2022年4月29日～6月26日



企画展

与謝野晶子没後80年 与謝野寛・晶子と富士山、静岡の文学

会期：2022年7月16日～9月4日



秋季特別展

士たちの富士山

会期：2022年10月1日～11月27日





開館5周年記念展
博士の愛した富士山
ーフレデリック・スーアールと九十九コレクションー
会期：2022年12月23日～2023年2月5日



企画展
第3回 絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展
会期：2023年2月23日～2023年3月26日



2 活動状況

2-1 永く守る

2-1-1 静岡県認定富士山世界遺産ガイド養成

1 概要

静岡県認定富士山世界遺産ガイドは、世界遺産「富士山」の顕著な普遍的価値及びその適切な保存管理について理解を深め、案内することができることを目的とし、2012年度に発足した。2015年度までの4年間にわたって養成講座を7回実施し、247名が修了した。その後、登録更新希望者を対象に2年毎の更新講座を実施し、その際の意向確認でこれまでに124名が登録を辞退・抹消（逝去含む）となり、2022年度末の登録者は123名である。

2 活動内容

- ・各構成資産における来訪者へのガイド
- ・教育機関、旅行業者等の依頼に基づいた添乗ガイド
- ・富士山をテーマとする各種講座等における講師
- ・富士山の価値や適切な保存管理の普及のための活動



（更新講座の様子）

3 更新講座

世界遺産ガイドとしての技量やモチベーションの維持・向上を目的として更新講座を実施している。例年、年度始めに実施計画日の中から対象者に希望調査を行い、年3～4回の更新講座を実施している。2022年度は、平成24・26年度登録者と、2021年度に受講予定であった平成25・27年度登録者のうち新型コロナウイルス感染症を理由とする受講延期者を対象に、11月から12月にかけて4回講座を実施した。今年度から、ガイドとしての技量をより高められる講座にするため、構成資産でガイドをしている方から実際にガイドを受ける内容に変更して実施した。参加者からは構成資産の現状を知ることができ、ガイドするうえでの心構えも学ぶことができると好評であった。

実施日	参加者数	会 場
11/ 9	24名	白糸の滝
11/19	5 名	
12/ 7	21名	富士山本宮浅間大社
12/11	13名	
2022年度更新者：63名		

● 2-1-2 サポートボランティア制度

1 概 要

地域の人々が静岡県富士山世界遺産センターの日々の活動を支え、来館者とセンター、地域とセンターを結ぶ架け橋として活動する組織として、サポートボランティア制度を設けた。2017年12月23日の開館当初は140名がサポートボランティアとして正式に登録し、活動を始めた。高校生・大学生から80代までの幅広い年齢層で構成されたメンバーが笑顔で来館者を迎えたが、2020年2月から新型コロナウイルス感染拡大予防とボランティアの安全確保のため通常活動は休止し、年度間では更新の確認のみとなり、新規募集は行わなかった。2022年度は74名の登録でスタートし、2年間に渡り休止していた通常活動を9月から再開した。再開に当たり、業務内容を見直した（下表）。また、新業務となる「館内登拝ガイド」実施のため養成研修を行った。また年度末には2年ぶりとなる新規募集を行った。

〈サポートボランティアの概要〉

区 分	内 容	
対 象	高校生以上	
任 期	1 年（令和4年4月1日～令和5年3月31日）毎年更新の意思を確認	
登録人数	74人	
業務内容 （通常）	来館者対応	一般来館者誘導（スロープ、シアター誘導等）、館内ガイド（※要研修の受講）
	館内業務	館内イベント補助
	資料整理 ライブラリー補助	研究員の調査・研究に関する資料整理補助 富士山ライブラリーの司書補助
	環境美化	館外の環境整備補助、植込整備、雑草除去
条件等	旅費・報償費支給無し、ボランティア保険加入（県負担）、ユニフォーム支給	

● 2-1-3 富士山保全協力金

1 概 要

静岡県は、富士山の普遍的価値（信仰の対象、芸術の源泉など）を広く後世に継承するための意識醸成を理念に、2014年度から富士山保全協力金を受け付けている。当協力金は、富士山の環境保全や登山者の安全対策を進める事業に活用しており、2022年度は、山小屋トイレの改修、外来植物侵入防止対策や須走口下山道の整備等に活用した。

2 各登山口の協力金受付

区 分	富士宮口	須走口	御殿場口
対 象	五合目から先に立ち入る来訪者		
期 間	2022年7月10日～同年9月10日		
記念品	缶バッジ（富士宮口：青、須走口：赤、御殿場口：緑）		
その他	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、協力金徴収に併せて、検温・体調チェックを実施した		

※県富士山世界遺産課において、インターネット・コンビニ受付も実施。



受付・検温・体調チェックの様子



記念品缶バッジ

3 富士山保全協力金の受入状況

2022年は2021年度と比べて協力者数は15,247人増、協力金額は14,686,741円増となった。

区 分			2022		2021		2022－2021	
			7月10日(土)～9月10日(金)		7月10日(水)～9月10日(火)			
			人数(人)	金額(円)	人数(人)	金額(円)	人数(人)	金額(円)
現 地	富士宮	五合目	10,970	10,880,981	5,011	5,025,382	5,959	5,855,599
		水ヶ塚	11,702	11,630,625	7,973	7,866,082	3,729	3,764,543
		小 計	22,672	22,511,606	12,984	12,891,464	9,688	9,620,142
	御殿場		5,463	5,149,346	4,829	4,775,517	634	373,829
	須 走		8,385	8,207,510	4,602	4,472,740	3,783	3,734,770
	小 計		36,520	35,868,462	22,415	22,139,721	14,105	13,728,741
ネ イ ッ ト タ 等	インターネット		102	102,000	0	0	102	102,000
	コンビニ		33	33,000	23	23,000	10	10,000
	県庁受付		1,260	1,076,000	229	229,000	1,031	847,000
	小 計		1,395	1,211,000	252	252,000	1,143	959,000
合 計			37,915	37,079,462	22,667	22,391,721	15,248	14,687,741

● 2-1-4 富士山安全対策

1 概 要

静岡県は、山梨県と連携し、富士登山における安全確保のため、富士山須走・吉田ルート of 山頂から八合目までの登下山道の安全誘導、下山道の巡回や案内看板設置等の安全対策、八合目分岐点の道間違い対策を実施している。

2 須走・吉田ルート安全誘導員の配置

静岡県富士山世界遺産センターでは、2022年7月1日から2022年9月10日までの期間、富士山須走・吉田ルートの山頂から八合目までの登下山道の安全誘導と下山道の八合目分岐点での道間違い防止のため、延べ378人の安全誘導員を配置した。



3 富士山須走・吉田ルート下山道安全対策

静岡県富士山世界遺産センターでは、2014年の富士山須走ルート下山道九合目付近での落石による事故を踏まえ、2015年以降の富士山開山期間中、須走ルート山頂～八合目区間で、案内看板の設置や、土砂・石等の埋め戻し等の巡回業務などの安全対策を実施している。



2-2 楽しく伝える

2-2-1 常設展示リニューアル

受け継ぐ山（火山分野）リニューアルテーマ：

「宝永噴火はどういう噴火だったのか？将来の富士山噴火への備えとして」

1 概要

宝永噴火はどういう噴火だったのか、そして人々が暮らす空間にどのように影響を与えたのか、これらについて火山学・歴史学の両面から捉えて解説した。そして、将来の富士山噴火では、どのような現象が発生しうるか、どこまでの範囲に直接的影響を及ぼし得るかに焦点を当て、富士山火山ハザードマップ（改定版）をもとに詳しく紹介した。

展示物としては、宝永火口内で採取した紡錘状火山弾（長径90cm）や降下火砕物に埋もれた畑の畝の地層剥ぎ取り試料（縦130cm×横150cm）といった大型資料のほか、多様な形状を有する火山弾（リボン状・パン皮状等）や火山礫等、来館者の関心を集めることができる実物資料を中心に配置した。また、高精度地形模型のプロジェクションマッピングを用いて、噴火現象・シナリオごとに異なる影響範囲を示しながら、富士山ハザードマップの表現の構成とその製作過程が理解できるようにコンテンツや投影画面の展開を工夫した。

2 展示構成

（1）エリア①

宝永噴火で放出された火山弾や火山礫を、噴出した順序を横列に、噴出物の軽さ重さを縦列に配置することで、宝永噴火の物質的な時空間推移を表現した。

＜展示物＞

- ・巨大火山弾：紡錘状火山弾（国土交通省富士砂防事務所寄贈）
- ・火山弾：紡錘状火山弾、リボン状火山弾、パン皮状火山弾、凝灰角礫岩
- ・火山礫：スコリア・縞状軽石・軽石等（以上、山梨県富士山科学研究所寄託）

（2）エリア②

富士山麓に暮らす人々の生活空間に降り積もった大量の火山礫が、人々の暮らしに甚大かつ100年もの長い間影響を及ぼし続けたことを解説した。

＜展示物＞

- ・宝永噴出物で埋もれた畑畝〔地層剥ぎ取り試料〕（伊豆半島ジオパーク寄贈）
- ・宝永噴火の噴出物堆積層序〔地層剥ぎ取り試料〕（センター採取）

（3）エリア③

将来の富士山噴火で発生する可能性のある噴火現象について、それぞれの影響範囲映像を高精度立体模型（赤色立体図）上にアニメーション表示させながら、富士山ハザードマップを解説した。

＜投影コンテンツ＞

- ・富士山ハザードマップ（改定版）を読み解く
（火口実績図と想定火口範囲、今後の富士山噴火で発生する現象 等）
- ・富士山噴火の歴史 ・富士山の麓を潤す湧水 ・世界遺産のある街

3 写真

(1) リニューアル前



写真1 「受け継ぐ山」展示エリア（リニューアル前）

(2) リニューアル後



写真2 「受け継ぐ山」展示エリア（リニューアル後）

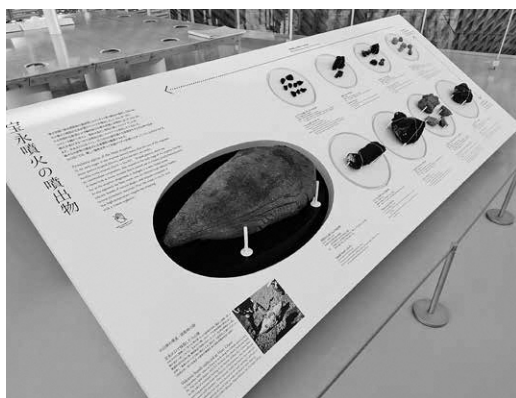


写真3 火山弾の展示（エリア①）



写真4 地層剥ぎ取り資料（左:エリア②）と
プロジェクションマッピング（右:エリア③）

○企画展

「与謝野晶子没後80年

与謝野寛・晶子と富士山、静岡の文学」

会 期 2022年7月16日～9月4日

入場者数 17,777人（期間中の常設展チケット発券枚数）

概 要

今から140年ほど前、与謝野晶子（1878-1942）は、現在の大阪府堺市の老舗和菓子店「駿河屋」の三女として生まれた。のちに夫となる与謝野寛（鉄幹）（1873-1935）に短歌の才能を見いだされ、23歳で第一歌集『みだれ髪』を刊行するなど、若くして新時代の歌人としての名声を得た文学者である。

文学的志向を同じくする与謝野夫妻は、終生互いの人生や文学活動に深い影響を与え続け、国の内外を問わず連れ立って多くの旅に出向き、温泉を愛した二人は、熱海や伊東、一碧湖など伊豆に足しげく通い、山梨県も含めた富士山の周辺にも出かけ、富士山や静岡に関わる多くの短歌や文学作品を残している。

2022年は晶子没後80年にあたることになみ、世界遺産センター初の文学展示として、自筆資料や歌集、関連資料のパネル解説などにより、与謝野夫妻の文学や静岡での旅、富士山に対する思いなどを紹介した。



【主な出展作品】

- ・与謝野晶子『みだれ髪』初版本 1冊 発行者：東京新詩社・伊藤文友館 明治34（1901）8月15日発行 堺市博物館蔵
- ・与謝野寛・与謝野晶子筆「歌百首屏風（抱くとて）」屏風 二曲一隻 昭和6（1931）年頃 堺市博物館蔵
- ・石井柏亭筆「伊豆三津における与謝野夫妻像」油彩画 個人蔵、日本近代文学館寄託）
- ・与謝野晶子筆「短歌掛軸」三軸 昭和12（1937）年か 清見寺蔵

【関連イベント】

- ・特別講演会

2022年7月31日

演題：与謝野晶子が語る恋物語—『新訳源氏物語』を読む

講師：中村ともえ氏（静岡大学教育学部准教授）

- ・スライドレクチャー

2022年 8 月20日

演題：与謝野寛・晶子の生涯と短歌

講師：田代一葉（静岡県富士山世界遺産センター学芸課准教授）

・ギャラリートーク

2022年 7 月18日、 8 月28日

講師：田代一葉（静岡県富士山世界遺産センター学芸課准教授）

○特別展

シリーズ江戸文化のなかの富士山V サムライ 士たちの富士山

会 期 第一部：清見寺と武家政権―足利将軍、豊臣秀吉、徳川家康―

2022年10月 1 日～10月30日

第二部：頂^{いただき}へのあこがれ

2022年11月 3 日～11月27日

観 覧 料 一般：700円／70歳以上：200円／大学生以下：無料（常設展観覧料含む）

入場者数 8,834人（期間中の企画展チケット発券枚数）

概 要

本展覧会では、武家と富士山の文化的な関係を二部構成によりひもときます。

第一部「清見寺と武家政権」では、武家たちの崇敬を集めた名刹清見寺にクローズアップします。

清見寺は足利将軍家により五山官寺制度のなかに組み込まれ十刹のひとつとなり、東海道屈指の名刹として知られてきました。戦国時代の混乱のなか同山

も荒廃しますが、今川義元の政治顧問であった太原崇孚のもと五山派から妙心寺派に改められます。

第三世の大輝祥暹は、豊臣秀吉や徳川家康ら天下人とも交誼を結び、同山の復興につとめます。とりわけ幼少期と老年期を駿府で過ごした徳川家康は、清見寺と密接な関わりをもちました。こうした由緒から江戸時代には、清見寺は東照大権現ゆかりの特別な寺院と位置づけられ、富士山、清見寺と家康を合わせ描いた「富士三保清見寺図屏風」（当センター蔵）などの作品も描かれます。同屏風は大画面のなかに天下人を絵画化した「御所参内・聚楽第行幸図屏風」（個人蔵）のような作品の系譜にも位置づけられます。

第一部では、清見寺に伝来した貴重な什宝をはじめ、武家たちの間で規範化された富士山と清見寺のイメージ、さらに豊臣秀吉や徳川家康ら清見寺を庇護した天下人に関連する資料を展覧し、富士山



と不可分の名利清見寺の文化的アイデンティティを武家文化との関わりから再検証します。

第二部「頂へのあこがれ」では、徳川将軍によって統治された太平の世、武家たちがいかに富士山に関心を抱いてきたのかについて、11代将軍徳川家斉の上覧に供された2つの作品を軸に考察します。寛政6年（1794）富士山登頂を果たした水戸藩士大場維景による登山図「富嶽真図」は、その登山記とともに家斉の上覧を得ますが、原本の所在は不明で、いくつかの模本が今に伝わります。そのうちこのほどセンター収蔵となった作品は、信州松代藩主で、松平定信と縁戚関係をもちつつ好文大名としても知られる真田幸弘が写させ跋を加えたもので、諸本のうちで来歴が確かな優品と位置づけられます。

一方、翌寛政7年には、富士登頂の過程を克明に描写した谷文晁筆「富士山中真景全図」（当センター蔵）も制作され、同じく将軍家斉の上覧に浴しています。もっとも同作は文晁自身の登山体験に基づいたものではなく、実際には水戸藩士の立原翠軒らとともに登山した小泉檀山が残した図様に依拠しています。

第二部「頂へのあこがれ」では、新しくセンターのコレクションに入った「富嶽真図」を「富士山中真景全図」と合わせて紹介するとともに、真田幸弘にも着目し真田家や同家ゆかりの長國寺に伝来した作品を展覧します。さらに士大夫たらん志した文人富岡鉄斎による富士登山にまつわる作品も特別展示し、江戸時代後期以降、武家の間で勃興し将軍をも巻き込んだ富士山頂への憧憬を追想します。

【主な出展作品】

〈第一部 清見寺と武家政権―足利将軍、豊臣秀吉、徳川家康―〉

- 「足利尊氏坐像」（静岡市・清見寺蔵）
- 「太原崇孚像」（木像及び画像／清見寺蔵）
- 「大輝祥暹像」（木像及び画像／清見寺蔵）
- 「富士三保松原・天橋立図屏風」（個人蔵）
- 「富士三保清見寺図屏風」（当センター蔵）
- 「御所参内・聚楽第行幸図屏風」（個人蔵・上越市立歴史博物館寄託）
- 「清見寺宛豊臣秀吉筆書状」（清見寺蔵）
- 「清見寺宛徳川家康筆書状」（清見寺蔵）
- 「徳川家康筆能番組」（清見寺蔵）

〈第二部 頂へのあこがれ〉

- 大場維景原筆・小野正応写・真田幸弘跋「富嶽真図」（当センター蔵）
- 「幸弘御生年甲乙七ツ目虎之図」（長野市・真田宝物館蔵）
- 「真田幸弘画像」（長野市・長國寺蔵）
- 真田幸弘筆「湘南絵巻」（真田宝物館蔵）
- 小野正応筆「青葉蔭」（真田宝物館蔵）
- 谷文晁筆「富士山中真景全図」（当センター蔵）
- 小泉檀山画『富岳写真』（個人蔵）
- 富岡鉄斎「富士山巔麓略図」（山梨県立美術館蔵）

【関連イベント】

・公開講座

2022年10月16日

演題：士たちの富士山

講師：松島仁（当センター教授）

・スペシャルギャラリートーク

2022年10月1日／11月23日

講師：渡邊康弘（歴史研究家 10月1日）／平井彰（山梨県立美術館学芸員 11月23日）

・ギャラリートーク

2022年10月2日、10日、11月3日、27日

講師：松島仁（当センター教授）

○開館5周年記念展

「^{はくし}博士の愛した富士山 フレデリックスタールと^{つくも}九十九コレクション」

会 期 2022年12月23日～2023年2月5日

観 覧 料 無料（常設展観覧料のみで観覧可）

入場者数 13,068人（期間中の常設展チケット発券枚数）

概 要

九十九^{おうじん}黄人（豊勝）は、早稲田大学在学中よりシカゴ大学人類学専攻の教授フレデリック・スタールの通訳をつとめた。黄人がスタール博士の調査に同行した際、あるいは博士の呼びかけによって集められた民俗学、民族学関係の博物資料を陳列する館として、昭和3年（1928）に東洋民俗博物館が奈良県奈良市あやめ池に開館している。黄人が収集した資料の中には富士山関係資料も多く含まれていたが、この資料は個人所蔵分として九十九邸の裏山に建てられた富士文庫に保管され、現在まで一般公開されることはなかった。今回の展示会は、黄人の子息弓彦氏の御協力により、スタール博士のコレクションを引き継いだ九十九黄人の富士山関係資料コレクションを初めて公開する展示会である。



フレデリック・スタール（1858年9月2日～1933年8月14日）

ニューヨーク州オーバーン市に生まれる。1882年にロチェスター大学で学位を得て、1885年にラファイエット大学で地質学における博士号を取得、アメリカ自然史博物館（AMNH）で学芸員として働く。明治37年（1904）2月にアイヌ研究のため初来日、以後昭和8年（1933）まで16回に及んだ。同年8

月に東京で他界。自ら山頂へも5回登山しているが、静岡県小山町の須走口のおおこめや^{おおこめや}の大米谷旅館を定宿とし登山していた。スタールと須走地区の関係は深く、死後に慰霊碑が建てられ、遺言により遺骨も埋葬されている。親日家であったスタールの日本研究は幅広く、特に納札に関して自分の名をもじった「寿多有」と刷られた納札^{せんしゃふだ}（千社札）を日本各地に持ち歩き、神社仏閣に貼って廻ったとされる。この行為がスタールを「お札博士」^{ふだはくし}と呼ばせる所以となった。

展示構成

- I 御札博士フレデリック・スタール～研究に捧げた生涯
- II スタール博士と九十九黄人～交流とコレクション
- III 九十九黄人富士山資料コレクション～新発見・展示会初公開の概要

【主な出展作品】

- ・千社札（スタール博士肖像等）
- ・板マネキ・布マネキ・紙マネキ（スタールオリジナルデザイン）
- ・マネキ（曾我部一紅追悼登山）
- ・大米谷関係資料一括（印刷物）
- ・書（Who knows the old, understand the new）掛軸（お札貼り交ぜ）
- ・富士見西行図（スタール自筆）
- ・稲畑作り御札博士人形
- ・「富士文庫」扁額
- ・富士山像（富士文庫開扉記念）
- ・鳩谷三志像
- ・マネキ（富士講各講社）
- ・生前のスタール博士が映るおそらく現存唯一の35ミリ撮影動画を初公開（昭和5年東洋民俗博物館スタール銅像除幕式7分24秒、同年九十九豊勝宅撮影動画2分10秒）、ほか関連資料、計140点。

※配布物として展示会解説リーフレット（4頁）と出品資料目録を作成した。

【関連イベント】

- ・特別講演会

2023年1月15日

論題：「父、九十九黄人を語る」

講師：九十九弓彦（東洋民俗博物館理事長）

- ・ギャラリートーク

2022年12月24日、12月25日、2023年1月14日、2月4日

講師：大高康正、井上卓哉

○企画展

第3回 絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展

会 期 2023年2月23日～2023年3月26日

観覧料 無料（常設展観覧料のみで観覧可）

入場者数 16,293人（期間中の常設展チケット発券枚数）

概要

静岡県では「富士山の日」の推進運動の一環として、2019年度まで「秀景ふるさと富士写真コンテスト」及び写真展を10回開催した。2020年度からは公益社団法人静岡県観光協会、NHK静岡放送局と共催し、これまでの全国各地の「ふるさと富士（見立て富士）」を撮影した「秀景ふるさと富士」部門に加え、静岡県側から「富士山」を撮影した「絶景しずおか富士山」部門の2部門からなる「絶景・秀景 富士山世界遺産写真コンテスト」を実施してきた。本企画展は3回目の入賞作品展となり、写真の応募総数は過去最多となる1,115点にのぼった。審査委員長沼田早苗氏、審査委員織作峰子氏、西田省三氏が厳選した100点の入選作品を展示した。

【出展作品】

・「絶景しずおか富士山」部門

グランプリ 「冬に咲く」川口信芳（撮影場所：裾野市須山）

NHK静岡放送局長賞 「錦秋」山本 裕（撮影場所：田貫湖（富士宮市））

静岡県観光協会会長賞 「幻流の飛沫」三井雅之（撮影場所：須走口5合目付近幻の滝（駿東郡小山町））

他57作品

・「秀景ふるさと富士」部門

グランプリ 「毛嵐の朝」別府和代（開聞岳（薩摩富士）鹿児島県）

静岡県富士山世界遺産センター館長賞 「朝陽に映える」鈴木彦三（磐梯山・会津嶺（会津富士）福島県）

他38作品



絶景しずおか富士山部門グランプリ



秀景ふるさと富士部門グランプリ



● 2-2-3 アトリウム展示活動

静岡県富士山世界遺産センター1階アトリウムでは、様々な機関と連携し、作品展示を行った。

（1）ふじのくに地球環境史ミュージアム

（2022年8月7日～22日）

ふじのくに地球環境史ミュージアムの巡回展示の一環として、オオグソクムシの化石標本などを集めた「化石の世界」を展示した。



（2）富士市

（2022年9月1日～7日）

富士市から望む絶景富士山をPRする「富士山百景写真コンテスト」の入賞作品を展示した。



（3）山梨県

（2022年9月17日～29日）

山梨県富士山レンジャーが撮影した写真を通して富士山の現状を伝えるとともに、安全登山啓発や環境保全の関心を高めてもらった。



(4) 山梨県

(2022年11月22日～12月4日)

富士山憲章事業の一環として、山梨県が開催した、富士山に宛てた年賀状のコンクールの優秀作品を展示した。



(5) 福岡県

(2022年11月25日～2023年3月14日)

『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群、歴史文化施設等と連携したスタンプラリー等の誘客促進企画に係るパネルを展示した。



2-2-4 教育旅行受入

1 教育旅行の受入

静岡県富士山世界遺産センターの基本コンセプトのひとつ「楽しく伝える」として、富士山の「楽習」機会の提供“学習支援”が位置付けられている。その一環としてセンターへの教育旅行団体の誘致促進に取り組んでいる。

2 受入実績概要

2022年度は県外への移動が緩和された影響もあり、県内利用が減少傾向、県外利用が微増という状態で、来館総件数も222件となり、R3年度（268件）から減少となった。逆に昨年度は実績の無かった海外の利用が3件（モンゴル、レバノン、アメリカ合衆国）となった。教育旅行全体としては13,379人の来館があった。



来館時の説明



5階展望ホールと修学旅行生徒

教育旅行来館数（2022年4月1日～2023年3月31日）

（単位：件）

	静岡県内			県外			※4 海外
	東部	中部	西部	※1 首都圏	※2 中部圏	※3 その他	
保育園 幼稚園	6	0	0	0	0	0	
小学校	26	28	30	11	4	0	
中学校	18	7	10	12	13	0	
高等学校	9	10	2	4	8	10	2
大学	0	0	0	0	0	0	1
専門学校 各種学校	9	0	0	1	0	1	
小計	68	45	42	28	25	11	3
		155			64		
合計	222						

※1…東京都（14）、山梨県（10）、群馬県（2）、埼玉県（1）、神奈川県（1）

※2…愛知県（6）、岐阜県（5）、三重県（10）、長野県（4）

※3…京都府（4）、大分県（2）、兵庫県（2）、富山県（1）、福島県（1）、大阪府（1）

※4…モンゴル国高校生訪問団、レバノン高校（かけしプロジェクト外務省事業）、カリフォルニア州立大学ボモナ校

2022年度の来館者120,984人（うち、観覧券発券数116,882枚）のうち、小人の入場券発券数19,301枚（全発券数の16.5%）、学生の入場券発券数8,369枚（全発券数の7.2%）であった。その内、教育旅行での受付人数は小人（幼稚園・保育園・小学校・中学校）10,648人（小人発券数の55.2%）、学生（高等学校・大学・大学院・専門学校等）2,707人（学生発券数の32.3%）であった。（※チケット区分「小人」15歳未満の児童・生徒、「学生」15歳以上の生徒・学生）

教育旅行団体来館時に提供するクイズシート（小学校向け：A4両面印刷）

静岡県富士山世界遺産センター クイズ☆シート

ここに答えを記入して完成させよう！

富士山世界遺産センターの中に、写真と同じ展示物があります。どの場所の展示物かを探して、下の見取図のそれぞれの場所に書いてある文字をつけて言葉完成させよう！

フジアザミ

富士山周辺に多く生えることから、「フジアザミ」と名付けられ、高さは20～100cm、葉の長さは30～70cmに達し、日本産のアザミでは最も大きな花を咲かせます。

1

宝永噴火

宝永噴火は、富士山（富士山）を噴出した。宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。

2

ふるさと富士

富士山は、富士山と似た形である。富士山は、富士山と似た形である。富士山は、富士山と似た形である。

3

宝永噴火

宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。

4

展示棟の木格子

展示棟の外壁を飾る木格子は、富士山麓から切り出した木を素材として、385年かかるといわれています。展示棟の外壁を飾る木格子は、富士山麓から切り出した木を素材として、385年かかるといわれています。

5

富士山麓の森

富士山麓の森は、富士山麓の森（富士山）を噴出した。富士山麓の森は、富士山麓の森（富士山）を噴出した。富士山麓の森は、富士山麓の森（富士山）を噴出した。

6

宝永噴火

宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。

7

宝永噴火

宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。宝永噴火は、宝永噴火（富士山）を噴出した。

8

富士山は「世界文化遺産」です。

年 組 番 氏名

解答欄

1 2 3 4 5 6 7 8

ワークシート（中学～高等学校向け：B4二折見開き）

静岡県富士山世界遺産センター ワークシート WORK SHEET

世界遺産センター見取図

解答欄

自然の中の山である富士山の「文化的な価値」

富士山の美しい景色や豊かな自然の恵みが、長い歴史を通じてさまざまな文化や芸術の源泉となってきました。

このことが、富士山の「文化的な価値」として評価され、世界文化遺産に登録されました。

氏名

● 2-2-5 出前講座

1 富士山世界文化遺産出前講座の概要

富士山の自然や文化、世界遺産についての基礎知識をわかりやすく説明し、富士山についての理解と関心を高め、世界遺産「富士山」の後世継承への気運を高めることを目的として、富士山世界文化遺産出前講座を実施している。小・中・高校の総合的な学習の時間や、特別活動における野外活動の事前学習のほか、生涯学習センター等各種団体からの依頼を受けて講師を派遣して講座を実施している。

2 地区・対象別実施数・人数（2022年4月1日～2023年3月31日）

〈一般〉

	地 区				合計
	東部	中部	西部	他	
件数（件）	13	22	1	1	37
人数（人）	704	587	8	11	1,310

〈学校〉

	地区別件数（件）					人数（人）
	東部	中部	西部	県外	合計	
小学校	11	8	2	4	25	2,067
中学校	8	0	2	1	11	1,535
高 校	2	0	0	0	2	250
専 門	0	0	0	0	0	0
大 学	0	2	1	0	3	275
合 計	21	10	5	5	41	4,127

3 分野・タイトル別実施数

〈富士山入門〉（担当：山崎主幹・長嶋主査）

	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
ふじさんってどんな山？	6	1	7	3,969
世界遺産の富士山を学ぼう	28	8	36	
合 計	34	9	43	

〈各論 文化：美術〉（担当：松島教授）	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
ふじさんを描いてみよう！	0	3	3	290
日本の美と心－富士山	0	2	2	
徳川将軍と富士山	0	1	1	
海を越えた富士山－外国に遣わされた絵画と工芸	0	1	1	
合 計	0	7	7	

〈各論 自然科学：火山・地質・防災〉（担当：小林教授）	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
静岡県の活火山を比較してみよう	0	1	1	454
富士山の噴火史と火山防災（ハザードマップの読み方）	2	4	6	
富士山に刻まれた噴火の痕跡を地形から読み解く	0	1	1	
富士山の湧水を科学の目で見ると	0	2	2	
合 計	2	8	10	

〈各論 歴史：信仰〉（担当：大高教授）	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
富士山信仰を歴史から学ぶ	4	3	7	447
富士山の参詣曼荼羅の絵解き	0	1	1	
富士山の縁起（えんぎ）を知る～赫夜姫（かぐやひめ）	0	1	1	
富士山の「合目」標記の変遷	0	1	1	
合 計	4	6	10	

〈各論 文学〉（担当：田代准教授）	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	合計	
富士山をほめよう！	0	0	0	126
文学と富士山	0	2	2	
富士山の伝説	0	3	3	
合 計	0	5	5	

〈各論 民俗〉（担当：井上准教授）	件数（件）			人数（人）
	学校	一般	小計	
富士山のふもとで生きる	1	1	2	151
頂に挑む～登山案内図や登山記にみる富士登山	0	0	0	
富士山の御札	0	1	1	
日本の象徴－富士山	0	0	0	
合 計	1	2	3	

総合計
78件 (5,437人)

4 2022年度出前講座実施一覧

〈富士山入門〉

番号	開催日	団 体	分類	受講者	地域	人数	タイトル
1	5月12日	富士宮市立大富士中学校	学校	中学1年	東部	147	世界遺産の富士山を学ぼう
2	5月16日	富士宮市立富士根南中学校	学校	中学1年	東部	202	世界遺産の富士山を学ぼう
3	5月31日	藤枝市立青島北小学校	学校	小学5年	中部	92	世界遺産の富士山を学ぼう
4	6月2日	富士宮市立北山中学校	学校	中学1年	東部	65	世界遺産の富士山を学ぼう
5	6月2日	静岡市立千代田東小学校	学校	小学5年	中部	85	世界遺産の富士山を学ぼう
6	6月15日	新渡戸文化小学校	学校	小学5年	県外	60	世界遺産の富士山を学ぼう
7	6月23日	静岡市立井宮北小学校	学校	小学5年	中部	72	ふじさんってどんな山？
8	6月24日	静岡市立由比小学校	学校	小学5年	中部	46	世界遺産の富士山を学ぼう
9	6月29日	静岡市用宗老人福祉センター	一般	高齢者	中部	20	世界遺産の富士山を学ぼう
10	6月30日	静岡市立清水両河内小学校	学校	小学4・5年	中部	24	世界遺産の富士山を学ぼう
11	7月5日	富士山登山口子どもサミット	学校	小学5年	東部 県外	240	世界遺産の富士山を学ぼう
12	7月7日	富士市立高等学校スポーツ探求科	学校	高校3年	東部	40	世界遺産の富士山を学ぼう
13	7月11日	静岡市立賤機北小学校	学校	小学1～6年	中部	17	ふじさんってどんな山？
14	8月3日	静岡市北部生涯学習センター 美和分館	一般	高齢者	中部	31	世界遺産の富士山を学ぼう
15	8月28日	静岡市北部生涯学習センター 美和分館	一般	子どもと保護者	中部	22	ふじさんってどんな山？
16	8月30日	静岡市立富士見小学校	学校	小学5年	中部	91	世界遺産の富士山を学ぼう
17	8月30日	富士宮市立大宮小学校	学校	小学6年	中部	60	世界遺産の富士山を学ぼう
18	9月1日	御殿場市立御殿場小学校	学校	小学6年	東部	170	世界遺産の富士山を学ぼう
19	9月1日	島田市立大津小学校	学校	小学6年	中部	30	世界遺産の富士山を学ぼう

番号	開催日	団 体	分類	受講者	地域	人数	タイトル
20	9月3日	ガールスカウト静岡県連盟	一般	中学・高校・一般	中部	50	世界遺産の富士山を学ぼう
21	9月6日	御殿場市立原里小学校	学校	小学6年	東部	77	世界遺産の富士山を学ぼう
22	9月6日	静岡市由比交流センター	一般	高齢者	中部	20	世界遺産の富士山を学ぼう
23	9月8日	静岡市立大里東小学校	学校	小学5年	中部	35	世界遺産の富士山を学ぼう
24	9月16日	中央区立豊海小学校	学校	小学6年	県外	150	世界遺産の富士山を学ぼう
25	10月7日	御殿場市立東小学校	学校	小学6年	東部	64	世界遺産の富士山を学ぼう
26	10月12日	越谷市立蒲生小学校	学校	小学6年	県外	176	世界遺産の富士山を学ぼう
27	10月14日	静岡市飯田生涯学習交流館	一般	一般	中部	21	世界遺産の富士山を学ぼう
28	10月17日	湖西市立岡崎小学校	学校	小学6年	西部	138	世界遺産の富士山を学ぼう
29	10月21日	江東区立東砂小学校	学校	小学5年	県外	55	世界遺産の富士山を学ぼう
30	10月24日	富士宮市立富士根南中学校	学校	中学1～3年	東部	400	世界遺産の富士山を学ぼう
31	10月28日	富士市立吉原第三中学校	学校	中学1～3年	東部	6	ふじさんってどんな山？
32	10月28日	袋井市立浅羽南小学校	学校	小学6年	西部	31	ふじさんってどんな山？
33	11月6日	朝霧野外活動センター 朝霧カーニバル	一般	子どもと保護者	東部	93	世界遺産の富士山を学ぼう
34	11月15日	静岡市鯨ヶ池老人福祉センター	一般	高齢者	中部	25	世界遺産の富士山を学ぼう
35	11月16日	静岡県立富士宮北高等学校	学校	高校1年	東部	210	世界遺産の富士山を学ぼう
36	11月16日	富士宮市立大宮小学校	学校	小学6年	東部	26	世界遺産の富士山を学ぼう
37	1月20日	御殿場市立南中学校	学校	中学1年	東部	9	世界遺産の富士山を学ぼう
38	2月8日	浜松市立積志中学校	学校	中学1年	西部	223	世界遺産の富士山を学ぼう
39	2月9日	富士山登山口子どもサミット	学校	小学6年	東部 県外	230	世界遺産の富士山を学ぼう
40	2月9日	富士市立岳陽中学校	学校	中学1～3年	東部	11	世界遺産の富士山を学ぼう

番号	開催日	団 体	分類	受講者	地域	人数	タイトル
41	2月14日	伊豆市立修善寺南小学校	学校	小学1年	東部	52	ふじさんってどんな山？
42	2月18日	静岡県立朝霧野外活動センター 223ウォーキング	一般	子どもと保護者	東部	133	世界遺産の富士山を学ぼう
43	3月3日	浜松市立湖東中学校	学校	中学1年	西部	220	世界遺産の富士山を学ぼう

〈各論：文化（美術）〉

番号	開催日	団 体	分類	受講者	地域	人数	タイトル
1	7月4日	神戸シルバーカレッジ	一般	高齢者	県外	11	徳川将軍と富士山
2	7月28日	静岡市興津生涯学習交流館	一般	子どもと保護者	中部	16	ふじさんを描いてみよう！
3	8月3日	静教研社会科研究部	一般	社会科教員	東部	196	日本の美と心-富士山
4	10月23日	富士市総務部 シティープロモーション課	一般	一般	東部	27	日本の美と心-富士山
5	1月12日	函南町生涯学習課	一般	一般	東部	20	海を越えた富士山
6	2月18日	浜松市立可新図書館	一般	子どもと保護者	西部	8	ふじさんを描いてみよう！
7	2月25日	伊豆市立修善寺図書館	一般	子どもと保護者	東部	12	ふじさんを描いてみよう！

〈各論：自然科学（火山・地質・防災）〉

番号	開催日	団 体	分類	受講者	地域	人数	タイトル
1	6月8日	岳南地域地下水利用対策協議会	一般	一般	東部	60	富士山の湧水を科学の目で見ると
2	7月7日	小山町立小山中学校	学校	中学1～3年	東部	182	富士山の噴火史と火山防災
3	8月11日	富士宮市環境部花と緑と水の課	一般	一般	東部	21	富士山の湧水を科学の目で見ると
4	9月14日	静岡中央地区安全運転管理協会	一般	一般	中部	31	富士山の噴火史と火山防災
5	10月18日	静岡市三保生涯学習交流館	一般	高齢者	中部	31	富士山の噴火史と火山防災
6	11月27日	ふじさんネットワーク (静岡県自然保護課)	一般	一般	中部	15	富士山の噴火史と火山防災
7	12月8日	静岡県高等学校理科教育研究会	一般	理科教員	東部	12	富士山に刻まれた噴火の痕跡を 地形から読み解く

番号	開催日	団 体	分類	受講者	地域	人数	タイトル
8	12月22日	御殿場市教育委員会社会教育課	一般	一般	東部	60	富士山の噴火史と火山防災
9	2月16日	富士市立大淵第二小学校	学校	小学4年	東部	3	富士山の噴火史と火山防災
10	2月25日	静岡市歴史博物館	一般	一般	中部	39	静岡県の活火山を比較してみよう

〈各論：文学〉

番号	開催日	団 体	分類	受講者	地域	人数	タイトル
1	5月25日	静岡市西奈生涯学習センター	一般	高齢者	中部	42	富士山の伝説
2	10月29日	伊豆市立修善寺図書館	一般	一般	東部	17	富士山の伝説
3	12月5日	富士宮市教育委員会社会教育課	一般	一般	東部	33	文学と富士山
4	2月7日	静岡市由比交流センター	一般	高齢者	中部	16	富士山の伝説
5	3月15日	焼津市東益津公民館	一般	一般	中部	18	文学と富士山

〈各論：歴史（信仰）〉

番号	開催日	団 体	分類	受講者	地域	人数	タイトル
1	6月23日	御殿場ボランティアガイド協会	一般	ボランティアガイド	東部	20	富士山信仰を歴史から学ぶ
2	9月17日	静岡市高部生涯学習交流館	一般	一般	中部	23	富士山の参詣曼荼羅の絵解き
3	10月16日	ふじさんネットワーク (静岡県自然保護課)	一般	一般	中部	6	富士山の「合目」標記の変遷
4	10月18日	静岡文化芸術大学	学校	大学1～3年	西部	240	富士山信仰を歴史から学ぶ
5	11月8日	小山町立須走小学校	学校	小学6年	東部	43	富士山信仰を歴史から学ぶ
6	11月12日	公益財団法人ふじのくに地域・大学 コンソーシアム	学校	大学1～4年	中部	20	富士山信仰を歴史から学ぶ
7	11月19日	公益財団法人ふじのくに地域・大学 コンソーシアム	学校	大学1～4年	中部	15	富士山信仰を歴史から学ぶ
8	12月15日	静岡市大里生涯学習センター	一般	高齢者	中部	35	富士山信仰を歴史から学ぶ
9	3月16日	静岡市清水船越老人福祉センター	一般	高齢者	中部	23	富士山信仰を歴史から学ぶ

番号	開催日	団 体	分類	受講者	地域	人数	タイトル
10	3月29日	静岡市清水南部交流センター	一般	高齢者	中部	22	富士山の縁起を知る～赫夜姫

〈各論：民俗〉

番号	開催日	団 体	分類	受講者	地域	人数	タイトル
1	12月7日	静岡市用宗老人福祉センター	一般	高齢者	中部	19	富士山の御札（おふだ）
2	2月9日	焼津市大井川公民館	一般	高齢者	中部	62	富士山のふもとで生きる
3	3月14日	横浜市立軽井沢中学校	学校	中学1年	県外	70	富士山のふもとで生きる

2-2-6 館内講座

1 館内講座の概要

富士山について様々な分野を通して学ぶ機会の提供を目的として、一般の方々を対象に館内講座を実施した。毎月第3日曜日を開催基準日に設定し、センターの研究員や外部の専門家と一般の方々が、富士山を題材に「広く交わる」ことができる講座を開催してきた。

2 実施状況

開催日	講 座 名	講 師	人数 (名)
4月17日	ビジュアル・メディアにみる富士山の姿	静岡県富士山世界遺産センター 井上 卓哉 准教授	6
5月15日	「暮らしと遊びのなかの富士山」展関連講座 富士山を楽しむ－民俗資料の美・美術品の 民俗－	日本人形文化研究所 林 直輝 所長	17
6月19日	もうひとつの“ジャポニスム” －18～19世紀に海を越えた富士山の絵画と 工芸－	静岡県富士山世界遺産センター 松島 仁 学芸課長兼教授	15
7月17日	富士山の植物	富士自然観察の会 長谷川 望 運営委員	20
8月21日	ミュージアムキャラバン「化石の世界」関 連講座 「化石から知る静岡の成り立ち」	ふじのくに地球環境史ミュージアム 西岡 佑一郎 准教授	19
9月18日	富士山信仰と仏像	仏像大好きアナウンサー 久保 沙里菜 氏	26

開催日	講 座 名	講 師	人数 (名)
10月16日	士たちの富士山	静岡県富士山世界遺産センター 松島 仁 学芸課長兼教授	18
11月20日	富士宮市・富士市の遺跡調査からみた富士 山噴火	静岡県富士山世界遺産センター 小林 淳 教授 袋井市教育委員会 深澤 麻衣 氏 富士市文化振興課 藤村 翔 氏	26
12月18日	地形から読み解く土砂災害史 －静岡県を中心に－	専修大学 荻谷 愛彦 教授	22
1 月15日	「博士の愛した富士山～フレデリック・ス タールと九十九コレクション」展関連講座 父、九十九黄人を語る	東洋民俗博物館 九十九 弓彦 理事長	30
2 月19日	ワークショップ 静岡の大地はどうやって できた？富士山の石を実験やクイズであて てみよう！	富士市少年自然の家 津田 和英 所長	10
3 月19日	ふるさと富士の魅力	山岳写真家 西田 省三 氏	25
合 計			234



公開講座の様子

2-2-7 世界遺産セミナー

1 概要

静岡県富士山世界遺産センターで実施している調査研究の成果を、広く社会に還元するため、富士山世界遺産セミナーを開催している。2022年度は沼津市で開催した。

2 2022年度開催実績

開催日	共催	テーマ・内容	参加人数
8月11日 (木・祝)	沼津市 (沼津市立図書館 視聴覚ホール)	『東海道・原の文化誌』 講演①「原の図像学—真景図から浮世絵版画へ」 松島 仁（静岡県富士山世界遺産センター教授） 講演②「東京国立博物館の旧植松家コレクション」 大橋 美織（東京国立博物館研究員） 講演③「白隠と原」 柿澤 香穂（早稲田大学會津八一記念博物館学芸員）	90人

3 沼津市におけるセミナーの様子



ポスター



会場の様子

4 富士山世界遺産登録10周年記念企画展・講演会

静岡県富士山世界遺産センターの認知度向上と誘客促進を図り、東京と大阪で企画展や出張講座を開催した。

(1) 東京 会場：東京美術倶楽部

「世界遺産富士山登録10周年記念特別企画『富士山 芸術の源泉』」

開催日	内 容	参加人数
2月4日 (土)	講演①「江戸絵画で巡る静岡の絶景」 浦澤 倫太郎（静岡県立美術館主任学芸員） 講演②「万延元年（1860）の外交的贈答品－新発見、徳川将軍から米国大統領へ贈られた富士山図－」 松島 仁（静岡県富士山世界遺産センター教授） 講演③「江戸絵画史の富士山図 饒舌館長ベスト10」 河野 元昭（静嘉堂文庫美術館館長）	来場者 178人 講演会参加者 76人
2月5日 (日)	講演①「古典詩歌が表現した富士山－絵画との協奏も視野に入れて－」 田代 一葉（静岡県富士山世界遺産センター准教授） 講演②「ふじのくにと茶の湯」 熊倉 功夫（ふじのくに茶の都ミュージアム館長）	来場者 100人 講演会参加者 53人

(2) 大阪 会場：阪急グランドビル

「富士山への旅『信仰の山に挑んだ人々』～富士山の参詣曼荼羅と江戸時代の富士登山～」

開催日	内 容	参加人数
2月11日 (土)	講演①「富士山の参詣曼荼羅を絵解く」 大高 康正（静岡県富士山世界遺産センター教授） 講演②「江戸時代の富士登山～大阪から富士山に挑んだ中谷顧山の記録から～」 井上 卓哉（静岡県富士山世界遺産センター准教授）	来場者 27人 オンライン 参加者 417人

(3) 東京・大阪での企画展・講演会の様子



会場の様子（東京）



会場の様子（大阪）

● 2-2-8 富士山世界遺産コラム

1 概 要

2021年度まで発行・ホームページで公開していた『世界遺産ニュースレター』に代わり、2022年度から『富士山世界遺産コラム』をセンター公式ホームページで公開するとともにメールマガジン登録者に配信し、センター研究員の研究成果や富士山に関わる情報を届けている。

2 実 績

配信・公開時期(号数)	内 容	担当者
2022年 6 月 (第 1 号)	富士山の開山日	大高康正 教授
2022年 7 月 (第 2 号)	与謝野寛・晶子と富士山	田代一葉 准教授
2022年 8 月 (第 3 号)	万延元年のディプロマティック・ギフト	松島仁 学芸課長兼教授
2022年 9 月 (第 4 号)	富士山麓に遊ぶ	山崎喜之 主幹
2022年10月 (第 5 号)	士(サムライ)たちの富士山 —大場維景の富士登山と「富岳真図」—	松島仁 学芸課長兼教授
2022年11月 (第 6 号)	富士山噴火の痕跡を巡る —風祭川火砕流： 火砕流堆積物に埋没した炭化木群—	小林淳 教授
2022年12月 (第 7 号)	商売繁盛の願いを富士山に託す —引札にみる富士山の姿—	井上卓哉 准教授
2023年 1 月 (第 8 号)	お礼博士フレデリック・スタールと 大頂寺石井真峯	大高康正 教授
2023年 2 月 (第 9 号)	富士の人穴草子 —世界遺産富士山の構成資産 「人穴富士講遺跡」を描いた物語—	田代一葉 准教授
2023年 3 月 (第10号)	静岡県富士山世界遺産センター 研究員の「推し本」！	長嶋昌和 主査

● 2-2-9 ホームページ・SNS・YouTubeによる情報発信

静岡県富士山世界遺産センターでは、コロナ禍における来館者数減少、デジタル社会のより一層の推進等、センターを取り巻く環境の激変に対応するべく、インターネットにおける情報発信の手段において、従来から行っていたホームページおよびfacebookに加え、新たに、Twitter・Instagram・YouTubeを開設し、情報発信力の強化を図っている。

ホームページでは主に、企画展やイベントの情報を、SNSでは主に、イベント開催実績などタイムリーな出来事を発信した。

HPアドレス：<https://mtfuji-whc.jp/>

Facebook アドレス：<https://www.facebook.com/TheFujisanWHC>

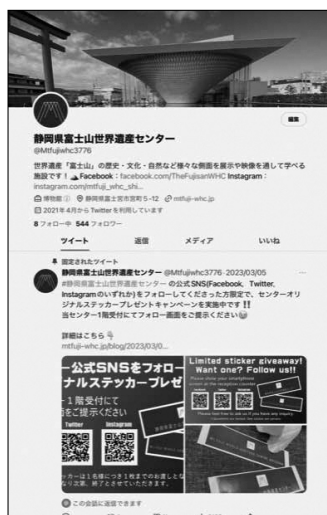
Twitter アドレス：<https://mobile.twitter.com/Mtfujiwhc3776>

Instagram アドレス：https://www.instagram.com/mtfuji_whc_shizuoka/

YouTube アドレス：<https://www.youtube.com/channel/UCOpJNr22jCPxVNFJPxsxbf8A>

(2023年 3月31現在)

	HP	Facebook	Twitter	Instagram	YouTube
アクセス・登録者数	214,336	1,597	544	899	20



2-2-10 メール会員

1 概要

静岡県富士山世界遺産センターでは、企画展や各種イベント情報等、センターの最新情報をメールマガジンで配信するメール会員の募集・運用を行っている。

センターの最新情報をタイムリーに配信するだけでなく、メール会員限定の特典企画を定期号として毎月1日に発信。

会員数1,460人（2023年3月31現在）

募集アドレス

<https://mtfuji-whc.jp/mailmagazine/>

静岡県富士山世界遺産センター
Mt.FUJI WORLD HERITAGE CENTRE, SHIZUOKA

メール会員

募集中!

企画展やイベント、講座情報など旬な話題をメールで配信！
会員限定の特別企画・イベント情報などお得な情報をいち早くゲット！

ご登録はこちら

Step 1 QRコードを読み取ってアクセス

Step 2 メールが立ち上がり空メール送信

Step 3 空メール受付完了メール内のアドレスにアクセス

Step 4 メールアドレスの入力と、居住地を選択し、送信。

Step 5 入力事項を確認し、登録送信で完了。

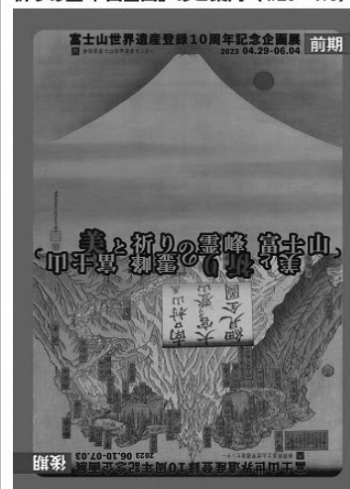
登録完了！
会員限定の情報が届く！

※送付メール対策を利用している場合、静岡県富士山世界遺産センターからのメールを受信できないことがあります。
※送信料はお客様ご負担となります。 ※ご登録いただいたメールアドレスは、静岡県富士山世界遺産センターからのご案内に利用いたします。

静岡県富士山世界遺産センター



【富士山世界遺産登録10周年記念企画展「美と祈りの霊峰 富士山」のご案内（4/29～7/3）】



富士山世界遺産登録10周年を記念し、今回は、日々進化（深化）し続けていく当館の収蔵品の中から、美（芸術）と祈り（信仰）をテーマに、2期にわたる収蔵品展を開催します！

前期では、「描かれた富士山」をテーマに、朝廷に仕えた土佐派と徳川将軍の御用をつとめた狩野派の絵師による富士山絵画の競演、さらに江戸時代後期に富士山の画家として名を馳せた谷文晁の絵画世界をお楽しみいただけます。後期では、祈り（信仰）をテーマにした展示会を開催いたします。信仰の対象としての富士山を紐解く資料、富士山信仰に関わる内容を収蔵品よりセレクトして紹介いたします。

会期中は関連イベントとして公開講座「徳川将軍と富士山」を開催するほか、ギャラリートークも複数回実施予定です！

詳細はこちらからご確認ください。

2-3 広く交わる

2-3-1 地域貢献・広域連携（富士山ネットワーク加盟）

1 概 要

地域貢献、富士山周辺の博物館施設との広域連携を目的に、静岡県富士山世界遺産センターは、2018年度から「富士山ネットワーク推進委員会（以下、富士山ネットワーク）」に加盟している。「富士山ネットワーク」とは富士山を中心に点在する博物館関係施設が、サービスの向上と効果的なPRを目指して1993年に組織したもので、「富士山かぐや姫ミュージアム」「富士山樹空の森」「奇石博物館」「富士サファリパーク」「富士山こどもの国」と当センターの6館園が加盟している。



巡回展の様子（1階アトリウム）

〔館園長会議〕 書面決裁で実施。

〔ぐるりんコンテスト〕 夏休みに小学生を対象に、作文、絵日記、工作などの作品を募集する「夏休み富士山ぐるりんコンテスト」、同コンテスト審査会、入賞作品の各館園での巡回展は行った。また、入賞作品集を作成した。（※受賞者を一堂に集めての表彰式は昨年度に引き続き、実施せず。）

〔PRイベント〕 各館のイベントや市民イベント等に出展し、クイズや体験ブースを設置するPR活動は昨年度、一昨年度に引き続き、一切行えなかった。

〔その他〕 PR方法として、SNSを活用した館園写真掲載等を継続的に行った。

2 主な活動

月 日	内 容（※定例会は主なもの）	場 所 ・ 備 考
6 月	館園長会議	※書面決裁にて実施。
〈定例会〉 4月13日 5月18日 6月22日 7月15日 9月15日 10月13日 11月18日 12月21日 1月18日 2月17日 3月15日	〈定例会内容〉 「ぐるりんコンテスト」事業内容について他 館園長会議調整、準備他 館園長会議書面決議、会則について他 「ぐるりんコンテスト」広報について確認他 ※8月実施せず 「ぐるりんコンテスト」審査会他 ぐるりんコンテスト確認他 今年度事業の中間報告 次年度事業計画、予算の検討 ぐるりんコンテスト巡回展について確認他 ぐるりんコンテスト作品集作成について他 次年度コンテストチラシ作成について他	〈定例会開催場所〉 富士山世界遺産センター（4月） 富士山樹空の森（5月） 富士サファリパーク（6月） 富士山こどもの国（7月） 富士山かぐや姫ミュージアム（9月） 奇石博物館（10月） 富士山世界遺産センター（11月） 富士山樹空の森（12月） 奇石博物館（1月） 富士山かぐや姫ミュージアム（2月） 富士山世界遺産センター（3月）
10月中旬～ 3月中旬	「ぐるりんコンテスト」入賞作品の巡回展示	加盟館園 ※富士山世界遺産センター最終

*「裾野市立富士山資料館」は令和4年4月から「休館」につき、同会を脱退。

2-3-2 視察受入

1 概 要

2022年度の自治体の世界遺産及び施設運営関係部署等による視察、観光関係等の企業・各種団体の視察は、新型コロナウイルス感染症が収まりつつあることを受けて令和4年度は回復傾向となり、35件、483人を受入れた（前年の令和3年度は16件、213人、コロナ前の令和元年度は88件、984人）。

（1）件数

（単位：件）

年月	行政・議会							民間	その他団体	合計
	静岡県	県内市町	国	他県	海外（国）	海外（自治体）	合計			
2022年4月計							0	2	1	3
5月計				1	1		2			2
6月計				1			1	1	1	3
7月計		1					1			1
8月計	1						1			1
9月計				1			1		2	3
10月計							0	1		1
11月計				2	1	1	4		1	5
12月計				2	1		3		3	6
2023年1月計				1			1		1	2
2月計				1	1		2	3		5
3月計					1	1	2	1		3
計	1	1	0	9	5	2	18	8	9	35

（2）人数

（単位：人）

年月	行政・議会							民間	その他団体	合計
	静岡県	県内市町	国	他県	海外（国）	海外（自治体）	合計			
2022年4月計							0	72	5	77
5月計				2	12		14			14
6月計				3			3	5	11	19
7月計		4					4			4
8月計	3						3			3
9月計				5			5		3	8
10月計							0	4		4
11月計				28	8	38	74		80	154
12月計				11	48		59		47	106
2023年1月計				5			5		22	27
2月計				2	13		15	37		52
3月計					6	4	10	5		15
計	3	4	0	56	87	42	192	123	168	483

2-4 深く究める

2-4-1 巡礼路調査

1 概 要

静岡県（事務局：静岡県富士山世界遺産センター）では、これまで総合調査が実施されていない登山道及び山麓の構成資産間を結ぶ巡礼路の研究計画を策定するとともに、巡礼路等の調査を実施するため、2015年に考古学、歴史学、民俗学、美術史といった各分野の学識者で構成される「富士山巡礼路調査委員会」を設置した。

2015年度から2018年度にかけては、小山町との連携の下に須走口登山道の調査を実施し、2017年度から2020年度にかけては、富士市及び富士宮市との連携の下に大宮・村山口登山道の調査を実施し、各々報告書を刊行した。

2021年度から2024年度にかけて、裾野市及び御殿場市との連携の下に、須山口登山道・御殿場口登山道の調査を行っており、2022年度は本調査期間の2年目に相当する。

2 富士山巡礼路調査委員会の構成

職 名	氏 名	専攻分野	職 名
委 員 長	中村羊一郎	民俗学	静岡市歴史博物館長
副委員長	菊池 邦彦	日本近世史	東京都立産業技術高等専門学校名誉教授
委 員	時枝 務	歴史考古学	立正大学文学部教授
委 員	松田香代子	民俗学	松田民俗研究所代表
委 員	山本 勉	美術史（仏像）	鎌倉国宝館長

※事務局 静岡県富士山世界遺産センター学芸課（担当 大高康正）

3 事務局及び各市町担当者の業務内容

- （1）富士山巡礼路調査委員会への出席
- （2）調査予定先との連絡調整、現地調査の立会い
- （3）登山道の経路を把握するための現地踏査（GPSデータの取得）
- （4）現地調査先での資料調査（聞き取り調査、資料撮影など）
- （5）調査成果の整理（撮影資料の目録採録、巡礼路調査報告書の分担執筆）

4 2022年度の調査内容（委員出席）

- ・ 6月1日 同年度第一回調査委員会（中村委員長、菊池副委員長、松田委員、山本委員出席、時枝委員は欠席）
- ・ 6月24日 御殿場口登山道調査（民俗分野）に関する打合せと御殿場市の保管資料の調査（松田委員出席）
- ・ 7月20日 御殿場口登山道（民俗分野）に関する資料調査（松田委員出席）
- ・ 8月24日・25日・26日 富士山資料館にて須山口登山道（歴史分野、民俗分野は24日のみ）に関する資料調査（菊池副委員長、松田委員出席）
- ・ 9月1日 ふじさんミュージアム（山梨県富士吉田市）、14日久伊豆神社（埼玉県越谷市）において、歴史考古学分野に関する資料調査（時枝委員出席）
- ・ 10月13日 伊豆市大守院にて須山口登山道に関わる資料調査（松田委員出席）
- ・ 11月1・7日 須山口登山道および御殿場口登山道に関して、24日 新橋浅間神社にて御殿場口登山道（民俗分野）に関する調査（松田委員出席）
- ・ 11月28～30日 御殿場市内、裾野市内にて須山口登山道調査に関わる神像、仏像調査（山本委員出席）
- ・ 1月31日 裾野市内にて仏像調査（山本委員、松田委員出席）
- ・ 2月14～17日 富士山資料館にて（歴史分野、民俗分野は14日のみ）資料調査（菊池委員、松田委員出席）

その他、委託調査として須山口登山道・御殿場口登山道周辺の陰影図作成業務を実施し、委託調査担当（株式会社フジヤマ）、裾野市担当職員、御殿場市担当職員、事務局センター研究員とで、適宜打ち合わせ、校正作業を実施した。



御殿場市内での仏像調査



裾野市内での仏像調査

● 2-4-2 研究活動

○松島 仁（まつしま じん）教授

1 著書

- ・2022年10月『士たちの富士山』（庄司美樹と共編。静岡県富士山世界遺産センター。論文「士たちの富士山」及び「富岡鉄斎 富士山巔麓略図」を除く全作品解説を執筆）

2 雑誌等論文

- ・2022年7月「帝鑑図と徳川将軍」（『儒教思想と絵画—東アジアの勸戒画』〈アジア遊学271号〉、勉強出版）
- ・2023年1月「神格化された始祖家康のイメージ」（『NHK大河ドラマ歴史ハンドブック どうする家康〈徳川家康と家臣団たちの時代〉』、NHK出版）
- ・2023年3月「万延元年のディプロマティックギフト—狩野董川中信筆「富士飛鶴図」の制作と意義—」（『國華』第1529号〈第128編第8冊〉、國華社）

3 報告書等 なし

4 その他の執筆

- ・2022年5月「2021年の歴史学界—回顧と展望—」日本・近世・一七美術（『史學雑誌』第131編第5号。公益財団法人史學會）

5 学会講演

- ・2022年12月9日「徳川将軍のイメージ戦略」（徳川みらい学会2022年度第5回講演会、於静岡市民文化会館）

6 一般講演

- ・2022年6月9日「海の外からみた富士山」（静岡県富士山世界遺産センター公開講座）
- ・2022年7月3日「徳川将軍と富士山」（神戸市シルバーカレッジ、同主催、オンライン配信）
- ・2022年8月3日「日本の美と心—富士山」（静岡県教育研究会社会科教育研究部2022年度夏季研究大会、静岡県教育研究会主催、於富士教育会館〈全県にライブ配信〉）
- ・2022年8月11日「東海道・原の図像学—真景図から浮世絵版画へ」（第13回富士山世界遺産セミナー「東海道・原の文化誌」（静岡県富士山世界遺産センター・沼津市・沼津市教育委員会主催、於沼津市立図書館視聴覚ホール）
- ・2022年10月16日「士たちの富士山」（静岡県富士山世界遺産センター公開講座）
- ・2022年10月23日「日本の美と心 富士山」（「静岡県富士山世界遺産センターの松島教授と行く！ 葛飾北斎、歌川広重に描かれたまち富士市」（富士市主催、於富士市役所）
- ・2022年11月19日「芸術の源泉としての富士山と天橋立」（天橋立名勝100年・特別名勝70年記念シンポジウム「日本の名勝と富士山、三保松原、天橋立」記念講演とパネルディスカッション、宮津市主催、於宮津市鶴賀のみやづ歴史の館）
- ・2023年1月12日「海を越えた富士山—外国に遣わされた絵画と工芸」（チャレンジ大学第7回学習会〈しずおか県民カレッジ連携講座〉、函南町主催、於函南町文化センター）
- ・2023年2月4日「万延元年の外交的贈答品（ディプロマティック・ギフト）」（富士山世界遺産登録10周年特別企画「富士山 芸術の源泉」、静岡県富士山世界遺産センター主催、於東京美術倶楽部）

7 授業 なし

8 社会的活動

(1) 委員・役員

- ・公益財団法人徳川記念財団特別研究員
- ・富士山ボランティアセンター（山梨県立富士山世界遺産センター）

「富士さんへ謹賀新年—富士山あて年賀状—」審査員

(2) 非常勤講師・客員教員等 なし

(3) 査読 なし

(4) 学術交流・研究会の開催

- ・2022年9月1日 幕末期外交的贈答品をめぐる研究協議（三浦篤 東京大学教授、高岸輝 東京大学教授、日高薫 国立歴史民俗博物館教授、エステル・ボエール フランス国立東洋言語文化大学教授）
- ・2022年11月11・14日 幕末期外交的贈答品をめぐる研究協議（エステル・ボエール フランス国立東洋言語文化大学教授）
- ・2023年1月19日、2月9日・13日、3月2・16日 公益財団徳川記念財団との旧将軍家所蔵品の共同悉皆調査研究

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

【テレビ】

- ・2022年10月9・10日 NHK静岡ニュース「富士宮市 徳川家康など天下人と富士山の関わり」
- ・2022年12月24日 NHK・BSプレミアム（12月22日NHK・BS4K）
「フランスで新発見 幕末ニッポンの秘宝 将軍からの贈り物」（2021年1月15日放映の再々放送）
- ・2023年2月17日 NHK静岡ニュース「江戸3代将軍徳川家光のイメージ戦略解説する研究会 富士宮市」
- ・2023年3月8日 NHK全国「歴史探偵 特集家康の顔」（3月10日に再放送）

【ラジオ】

- ・2022年9月21日 エフエム立川 富士山世界遺産センター紹介
- ・2022年11月7日 ラジオF「ミュージアムリンク」士たちの富士山展解説

【新聞】

- ・2022年4月22日 「富士山 平和の力に」 静岡新聞・記者コラム「清流」
- ・2022年10月1日 「富士山と武家の関係ひもとく 清見寺の宝物一堂 世界遺産センターで特別展」 静岡新聞・県内総合
- ・2022年10月17日 「富岳真図」静岡新聞・連載「美と快と一収蔵品物語」第42回
- ・2023年11月20日 「天橋立と富士山 絵画で考察 天橋立と富士山 絵画で考察」 宮津で名勝100年記念シンポ 特色や類似点紹介」京都新聞・丹後中丹
- ・2023年1月6日 「本当はどんな顔？ 肖像画『神様らしさ』前面」中日新聞・カルチャー欄
- ・2023年1月7日 「英王室の屏風 岐南にも 家茂が贈呈 同じ構図 作者など調査へ」 讀賣新聞・岐阜
- ・2023年2月23日 「家康 霊峰と貴重な共演 県世界遺産センター所蔵 屏風が織りなす忠臣との出会い」静岡新聞・「世界遺産2.23富士山の日」特集（同じ記事が「家康 ひとときわ高い信仰心

屏風絵の中で“共演”として同日の山梨日日新聞・「富士山の日」特集に掲載)

10 海外学術調査

- ・2022年11月7～8日 オランダ・国立ライデン民族学博物館にてフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト収集品に含まれる富士山絵画、安政3年(1856)徳川家茂からウィレム3世へ贈答された屏風絵を調査
- ・2022年11月10日 フランス・フォンテーヌブロー宮殿にて文久2年(1862)遣欧使節持参の徳川家茂からナポレオン3世への贈答品のうちの掛幅画を調査
- ・2022年11月14日 大英博物館にてウィリアム・アンダーソン収集品等に含まれる富士山絵画を調査
- ・2022年11月14日 英国・ロイヤル・コレクション・トラストにて万延元年(1860)徳川家茂からヴィクトリア女王へ贈答された「富士三保松原図屏風」を熟覧

○小林 淳(こばやし まこと) 教授

1 著書(編著・単著)

- ・「新島・神津島一流紋岩マグマがもたらす爆発的な噴火―」(分担)(小林 淳・村田昌則・西澤文勝:伊豆諸島の自然災害(鈴木毅彦・市古太郎編著)、pp.45-68、古今書院、2023年)

2 論文

- ・「伊豆諸島北部、利島における更新世末期の流紋岩質テフラの層序」(高橋尚志・青木かおり・村田昌則・小林 淳・鈴木毅彦:第四紀研究、61-3、pp.87-107、2022年)
- ・「特集「噴火史研究と火山観測を統合した新たな火山像の確立」について(エピローグ)」(奥野 充・井口正人・三好雅也・三浦大助・小林 淳・橋本武志・大場 武・佐藤鋭一・宝田晋治:火山、67-3、pp.251-254、2022年)
- ・「Reconstruction of submarine eruption processes from FTIR volatile analysis of marine tephra: Example of Oomurodashiki volcano, Japan」(I. M. McIntosh, K. Aoki, T. Yanagishima, M. Kobayashi, M. Murata and T. Suzuki: Frontiers in Earth Science, DOI 10.3389/feart.2022.963392, 2022)
- ・「富士火山東山麓、御殿場・馬伏川岩屑なだれ堆積物の14C年代」(山元孝広・小林 淳:地質調査研究報告、2023年(受理済・印刷中))

3 報告書等 なし

4 その他の執筆

- ・「富士宮を襲った富士山噴火―青沢溶岩流、風祭川火砕流、二子山天母山噴出物に関する新知見」:(富士山学、no.3、pp.54-61)
- ・「地層剥ぎ取り標本からみえる富士山の噴火と崩壊」:(富士山学、no.3、pp.62-63)
- ・「大地の恵み―地下水と地下資源」(分担):(富士宮市史、第一編 富士宮の自然環境 第一章 富士宮の大地、pp.66-77.)
- ・「火山噴出物から分かる遺跡の年代と分布」(分担):(富士宮市史、第二編 富士宮の自然と向き合った人々 第一章 先史～中世:自然を生かした暮らしと信仰心のめばえ、pp.136-145.)

5 学会講演

- ・2022年5月23日「富士火山、宝永噴火の最初期相」(馬場 章・藤井敏嗣・安田 敦・小林 淳・

村田昌則・西澤文勝：日本地球惑星科学連合2022年大会、SVC29-07).

- ・2022年7月14日「Geochemical variation of tephra beds in the sedimentary core C9010E off the Boso Peninsula in Japan and their source volcanoes」(A. Aoki, M. Kobayashi, T. Takahashi, M. Murata, F. Nishizawa: Goldschmidt Hwawai' i 2022)
- ・2022年8月26日「房総沖掘削コアC9010Eのテフラ層序—海底火山大室ダシ起源と推定される3万年前のテフラの発見—」(青木かおり・小林 淳・村田昌則・宮入陽介・横山裕典・鈴木毅彦：日本第四紀学会2022年大会、O-05)
- ・2022年10月1日「伊豆諸島北部火山の噴火史研究に関する最近の動向」(鈴木毅彦・青木かおり・小林 淳・村田昌則・西澤文勝・高橋尚志：Proceedings of the International Meeting on Eruptive History and Informatics, No.1、A-07)
- ・2022年10月13日「富士火山、宝永噴出物中の溶結凝灰岩・黒曜石」(馬場 章・藤井敏嗣・安田 敦・小林 淳：日本火山学会2022年度秋季大会、A2-04)
- ・2022年10月13日「Eruption history of the submarine Oomurodashi volcano」(I. McIntosh, K. Tani, K. Aoki, A. Nichols, T. Yanagishima, Q. Chang, J. Kimura, M. Kobayashi, M. Murata and T. Suzuki：日本火山学会2022年度秋季大会、B2-14)
- ・2023年1月31日「Constraining the tempo and frequency of explosive eruptions since 30 ka occurred in the northern Izu Islands, off Tokyo, Japan」(T. Suzuki, K. Aoki, M. Kobayashi, M. Murata, F. Nishizawa, T. Takahashi: IAVCEI Scientific Assembly 2023, Rotorua, New Zealand)
- ・2023年2月27日「房総沖掘削コアC9010Eに介在する海底火山由来と推定されるテフラ層」(青木かおり・小林 淳・高橋尚志・村田昌則・鈴木毅彦：令和4年度共同利用・共同研究成果発表会、O-04)

6 一般講演

- ・2022年6月8日「富士山の湧水を科学の目で見える」(岳南地域地下水利用対策協議会(ふじさんめっせ))
- ・2022年8月11日「富士山の湧水を科学の目で見える—地下水の道のりとその年代—」(富士宮市市政80周年記念事業「水の日記念事業」：富士宮市環境部花と緑と水の課(富士宮市役所))
- ・2022年8月20日「富士山ハザードマップの読み解き方—富士山噴火の脅威を正しく知るために—」(ふじミュウ夏のイベント：ふじのくに地球環境史ミュージアム)
- ・2022年9月14日「富士山の噴火史と火山防災—富士山ハザードマップの読み解き方—」(静岡中央地区安全運転管理協会(静岡県労政会館))
- ・2022年10月18日「富士山の噴火史と火山防災—火山ハザードマップの改定を受けて—」(静岡市三保生涯学習交流館)
- ・2022年11月24日「首都圏・さいたまにおける火山災害」(さいたま市大宮区自治会連合会(静岡県富士山世界遺産センター))
- ・2022年11月27日「富士山の噴火史と火山防災—富士山ハザードマップの読み解き方—」(ふじさんネットワーク：静岡県自然保護課(富士山環境交流プラザ))
- ・2022年12月8日 令和4年度静岡県高等学校理科教育研究会地学部会研修会 兼 東部支部地学部会研修会「富士山の噴火史と火山防災—火山災害とは何か？また、富士山の噴火史の特徴、ハザードマップの読み方について—」[静岡県立沼津東高等学校]

- ・2022年12月22日「富士山の噴火史と火山防災—富士山ハザードマップ（改定版）を読み解く」（市民大学講座：御殿場市生涯学習課（御殿場市民交流センター ふじざくら））
- ・2023年2月25日「静岡県の活火山を比較しよう—静岡の大地の成り立ちと富士山の噴火史—」（静岡市歴史博物館）
- ・その他、富士山世界文化遺産出前講座を適宜対応

7 授業 なし

8 社会的活動

（1）委員・役員

- ・次世代火山研究PJデータ利活用推進タスクフォース：降灰チーム委員

（2）非常勤講師・客員教員等

- ・静岡大学防災総合センター 客員教授
- ・首都大学東京都市環境学部 客員教授

（3）査読 なし

（4）学術交流・研究会の開催

- ・日本火山学会：2022年度秋季大会（三島）実行委員会・公開講座実行委員会：委員
- ・日本火山学会：2022年度秋季大会（三島）現地討論会「富士山」：案内者（分担）

（5）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・2020年5月～2023年3月 富士宮市史編さん事業〈執筆員〉[富士宮市]
- ・2022年5月～2023年3月『地学事典（第四版）』（恐山火山）〈項目執筆〉[地学団体研究会]
- ・2022年8月12日～18日 富士宮市市政80周年記念事業「水の日記念事業」「富士山の湧水—その道のりと歴史—（令和2年度企画展）」〈パネル展示〉[富士宮市]
- ・2022年8月18日 ふじミュー夏のイベント「火山灰を観る—マグマが作り出すガラスの世界—」〈分担講師〉[ふじのくに地球環境史ミュージアム]
- ・2022年10月4日 大井川鉄道インバウンドPR動画〈出演〉[大井川鉄道]
- ・2022年11月2日 富士山の湧水の特徴と山麓の生活に与える影響〈インタビュー・取材〉[中央日本総合観光機構]
- ・2023年2月18日～3月5日（ギャラリートーク：2月23日）ふじミュー富士山の日特別イベント「富士山の湧水」〈展示協力・ギャラリートーク〉[ふじのくに地球環境史ミュージアム]
- ・2023年3月2日 県警察学校災害警備専科「火山がもたらす災害について—静岡県・富士山の噴火史と火山防災—」〈講師〉[静岡県警察本部]
- ・その他、適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

- ・2022年7月12日 静岡新聞：小山中で防災教室
- ・2022年8月15日 テレビ東京「よじごじDays」：秋の連休に行きたい！富士の名水スポット
- ・2022年12月26日 静岡新聞：富士山噴出物間近に：火山学・防災エリア新
- ・2023年1月7日 読売新聞：宝永噴火伝える火山弾
- ・2023年2月21日 NHK静岡総合テレビ「たっぷり静岡」：チェック防災～富士山噴火
- ・2023年2月23日 ボイス・キュー：富士山からのおくりもの

10 海外学術調査 なし

○大高 康正（おおたか やすまさ）教授

1 著書（編著・単著） なし

2 論文

- ・2023年3月「富士参詣曼荼羅三明神社本を絵解く」（『山岳修験』第70号、日本山岳修験学会）

3 報告書等 なし

4 その他の執筆

- ・2022年6月「富士山の開山日」（富士山世界遺産コラム〈Vol.1〉、静岡県富士山世界遺産センターHP）
- ・2023年1月「お札博士フレデリック・スタールと大頂寺石井真峯」（富士山世界遺産コラム〈Vol.8〉、静岡県富士山世界遺産センターHP）
- ・2023年3月「書評と紹介 吉田政博著『戦国期東国の宗教と社会』」（『山岳修験』第70号、日本山岳修験学会）
- ・2023年3月「編集後記」（『山岳修験』第70号、日本山岳修験学会）
- ・2023年3月「編集後記」（『山岳修験』第71号、日本山岳修験学会）

5 学会講演

- ・2022年8月7日（日）：前近代日本宗教ワークショップ（PJRW）「修験道の地域的展開（富士・ニュージーランド編）」：「富士峯修行～富士山の修験者の根本修行」
- ・2022年9月16日（金）：「モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究」：「富士山の信仰の歴史」（概要）

6 一般講演

- ・2022年6月23日（木）御殿場ガイドボランティア協会講座：「富士山世界遺産」
- ・2022年9月17日（土）高部生涯学習交流館：「富士山の参詣曼荼羅の絵解き」
- ・2022年11月16日（日）ふじさんネットワーク（静岡県自然保護課）：「富士山の「合目」標記の変遷」
- ・2022年11月8日（火）小山町立須走小学校：「富士山信仰を歴史から学ぶ」
- ・2022年12月15日（木）静岡市大里生涯学習センター：「富士山信仰を歴史から学ぶ」
- ・2023年2月11日（土）阪急たびコト塾講座：富士山への旅「信仰の山に挑んだ人々」
- ・2023年2月24日（金）ハルカムナカタ座談会（アクロス福岡円形ホール）：「ハルカムナカタ座談会 参加施設紹介（静岡県富士山世界遺産センター）」
- ・2023年3月16日（木）静岡市清水船越老人福祉センター：「富士山信仰を歴史から学ぶ」
- ・2023年3月29日（水）静岡市清水南部交流センター：「富士山の縁起を知る～赫夜姫」

7 授業

- ・2022年10月18日（火）静岡文化芸術大学「静岡学」講座：「富士山と富士山信仰」
- ・2022年11月12日（土）・19日（土）ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ふじのくに学」単位互換授業：「富士山の自然と社会」座学、現地見学

8 社会的活動

(1) 委員・役員

- ・小山町文化財保存活用地域計画策定会議委員
- ・日本山岳修験学会理事

・富士市文化財保護審議会審議委員

・富士宮市史（中世）執筆員

(2) 非常勤講師・客員教員等 なし

(3) 査読

・日本山岳修験学会編『山岳修験』第70号・第71号編集委員

(4) 学術交流・研究会の開催

・2021年4月～2026年3月：日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究（B）「両部神道の伝播と継承に関する総合的研究」（代表：伊藤聡）研究分担者

・2022年6月18日（土）三島商工会議所「東海道中世史研究会」：「富士山の信仰圏の形成に関する一考察」報告

・2022年11月13日（日）伊勢河崎商人館「第1回中近世伊勢社会経済史研究会」：「参詣曼荼羅研究の視点」報告

(5) 他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

・適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

・2022年5月21日（日）TBS系「世界ふしぎ発見」：「歩くパワースポット SHOCK EYE と行く 開運！絶景神社巡り！」富士山本宮浅間大社案内、出演

・2022年7月5日（火）BS ジャパネクスト「林家三平のおきらく旅」富士山世界遺産センター案内、出演

・2023年1月1日（日）毎日新聞「新春 富士山ルポ」取材記事

・2023年1月1日（日）中日新聞「三霊山 共に飛翔」取材記事

・2023年1月9日（月）Radio-f「Link」：「博士の愛した富士山」展解説出演

その他、適宜対応

10 海外学術調査 なし

○田代 一葉（たしろ かづは）准教授

1 著書（編著・単著） なし

2 論文 なし

3 報告書等 なし

4 その他の執筆 なし

5 学会講演 なし

6 一般講演 なし

7 授業 なし

8 社会的活動

(1) 委員・役員

・日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員、卓越研究員候補者選考委員会書面審査員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員

・日本近世文学会編集委員

(2) 非常勤講師・客員教員等 なし

(3) 査読

- ・日本近世文学会発行『近世文藝』第117号（2023年1月発行）
- ・『近世文藝』第118号（2023年7月発行予定）

(4) 学術交流・研究会の開催 なし

(5) 他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・NHK「新春開運!!富士山ぐるっと一周ウォーク」（2023年1月1日放送）取材協力
- ・県民および山梨などの他県民からの問い合わせ複数
など

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

- ・2022年8月9日他、NHKたっぷり静岡など「与謝野寛・晶子と富士山、静岡の文学」展
- ・2022年8月1日、29日 ラジオエフ「ミュージアムリンク」出演
- ・2022年7月16日 静岡新聞「与謝野晶子没後80年企画展 夫妻と富士山 関係紹介」
- ・2022年7月16日 岳南朝日「与謝野晶子を知る 県富士山世界遺産センター初の文学展」
- ・2022年7月20日 富士ニュース 「与謝野夫妻の企画展 世界遺産センター 富士山、静岡の文学」
- ・2022年7月21日 岳南朝日 「与謝野夫妻の文学にスポット当て 県富士山世界遺産センターで企画展 4部構成で歩みや作品など紹介」
など

10 海外学術調査 なし

○井上 卓哉（いのうえ たくや）准教授

1 著書（編著・単著） なし

2 論文 なし

3 報告書等

- ・2022年4月『大宝院秋山家』（富士市教育委員会文化財課）

4 その他の執筆

- ・2022年11月「商売繁盛の願いを富士山に託す一引札に見る富士山の姿」（富士山世界遺産コラム〈vol.7〉、静岡県富士山世界遺産センターHP）
- ・2023年3月「書評と紹介 山本志乃著『団体旅行の文化史－旅の大衆化とその系譜』」（『山岳修験』第70号、日本山岳修験学会）
- ・2023年3月「第41回日本山岳修験学会富士山学術大会を終えて」（『山岳修験』第70号、日本山岳修験学会）

5 学会講演

- ・2022年6月26日（日）：静岡県民俗学会大会：「ある木鉢職人の語りと道具～失われゆく歴史・文化に何ができるのか」
- ・2022年10月22日（土）：日本山岳修験学会：「富士山登山案内図の制作と頒布—吉原宿田子之浦絵図の分析から—」

6 一般講演

- ・2022年4月17日（日）：静岡県富士山世界遺産センター公開講座：「ビジュアル・メディアに見る富士山の姿」
- ・2022年12月7日（水）：静岡市用宗老人福祉センター：「富士に祈る－お札や引札などに込められた祈りのカタチ」
- ・2023年2月9日（木）：焼津市大井川公民館：「富士山麓で生きる～製紙と製茶に見る明治のイノベーション」
- ・2023年2月11日（土）：阪急たびコト塾講座：「江戸時代の富士登山」
- ・2023年3月4日（土）：はじめて学ぶ！「世界遺産県民講座」：「日本のシンボルとしての富士山」
- ・2023年3月14日（火）：横浜市立軽井沢中学校：「富士山麓に生きる～富士山の湧水を使った産業、特に製紙業を中心に」
- ・2023年3月25日（土）：栄村の文化と自然報告会：「秋山木鉢を作る・使う－木鉢に見る秋山の暮らし」

7 授業 なし

8 社会的活動

（1）委員・役員

- ・静岡県民俗学会理事
- ・日本山岳修験学会理事
- ・東近江市森の文化資源調査（木地師分野）調査員
- ・富士宮市史（民俗）執筆員

（2）非常勤講師・客員教員等 なし

（3）査読

- ・日本山岳修験学会編『山岳修験』第70号・第71号編集委員

（4）学術交流・研究会の開催

- ・2021年4月～2026年3月：日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究（B）「両部神道の伝播と継承に関する総合的研究」（代表：伊藤聡）研究協力者
- ・2022年11月13日（日）伊勢河崎商人館「第1回中近世伊勢社会経済史研究会」：「俵札にみる御祓大麻（神宮大麻）の配札活動」報告

（5）他施設・団体への協力と県民からの問い合わせ対応

- ・適宜対応

9 テレビ・ラジオ・新聞等への出演

- ・2022年8月11日（木）岳南朝日「ヒューマンストーリー」取材記事
- ・2023年1月22日（日）東京新聞サンデー版「大図解 富士山」取材記事および執筆（「ニッポンの象徴」）

10 海外学術調査 なし

2-4-3 資料収集

1 資料収集の方針

静岡県富士山世界遺産センターでは、設置目的である富士山の価値の後世継承、富士山学の研究、情報発信拠点としての役割を果たすため、富士山に関する資料を以下の視点から収集している。

- (1) 「信仰の対象」と「芸術の源泉」としての普遍的な価値を証明する資料を収集する。
- (2) 貴重な文化財の滅失や散逸を防ぐとともに、富士山学の研究の充実や教育の普及、集客力の強化に活用する資料を収集する。

2 2022年度収集作品

2022年度はセンターの収蔵方針に基づき、厳正かつ緻密な調査、さらに2022年8月19日の収集専門委員会会議を経て下記19件（購入18件、寄贈1件）の資料を収集した。各作品の概要と収集の理由は下記の通りである。

○購入資料一覧

No.	ジャンル	作者	資料名
1	絵画	と き みつね 土佐光孚	ふ じ きょくじつ ず 富士に旭日図
2	絵画	こ いずみだんざん 小 泉 檀山	ふ がくしゃしん 富岳写真
3	絵画	しょだいうたがわひろしげ 初代歌川広重	とう と めいしょ に ほんばしはく う 東都名所 日本橋白雨
4	絵画	か のうせいせんいんおさのぶ 狩野晴川院養信	し き ふ じ ず 四季富士図
5	絵画	しょだいうたがわひろしげ 初代歌川広重	え ほん え ど みやげ だい ご へん 絵本江戸土産 第五編
6	絵画	うたがわさだひで 歌川貞秀	みなみぐちむらやまならびにおみや と ざんさいけん え ず 南 口村山 並 大宮ヨリ登山細見絵図
7	絵画	よしの やす ごろうせん 吉野保五郎選	よしわらじゆくた この うら え ず 吉原 宿 田子之浦絵図
8	絵画	不明	ふ じ さんけい まん だ ら 富士参詣曼荼羅
9	絵画	うたがわさだひで 歌川貞秀	さんごくだいいちさんの ず ふ じ さんたいないめぐりの ず 三国第一山之図・富士山体内巡之図（2点一括）
10	絵画	こうじ ややす べ え はんもと 糺 屋安兵衛版元	ふ じ さんおもてぐちしょうめん ず 富士山 表口正面図
11	絵画	うたがわくにてる 歌川国輝	ふ じ さんしよにんさんけいの ず ふ じ さんしよにんさんけい げざんの ず 富士山諸人参詣之図・富士山諸人参詣下山之図（2点一括）
12	絵画	うたがわひろしげ 歌川広重	そ が ものがたり ず え いっかつ 曾我物語 図絵一括（30枚）
13	絵画	うたがわよしとら 歌川芳虎ほか	ふ じ まきがり ふ じ かわ かつせんにしき え いっかつ 富士の巻狩・富士川の合戦 錦 絵一括（8点）

No.	ジャンル	作者	資料名
14	絵画	うたがわよしつや 歌川芳艶ほか	そ が きょうだい あだう にしき え いっかつ 曾我 兄弟の仇討ち錦絵一括（3点）
15	絵画	うたがわひろしげ 歌川広重	なりひらあずまくだ の ず 業平 東 下り之図
16	絵画	うたがわよしむね 歌川芳宗	とうかいどう ふ じ さんちょうぼう の ず 東海道富士山 眺望之図
17	絵画	うたがわさだひで 歌川貞秀	とうかいどうさつ た とうげ の けい 東海道薩陀 峠 之景
18	工芸	かじかわ かん 「梶川」 款	し き ふ じ さんまきえ て あぶり 四季富士山蒔絵手 焙

・「富士に旭日図」 土佐光孚 江戸時代後期（19世紀）

【作品概要と収集理由】

作者の土佐光孚（1780～1852）は宮廷の御用をつとめた土佐派の絵師で、土佐別家をたてた光貞（1738～1806）の嫡男。父に従い寛政度の内裏制作に携わるとともに、文政元年（1818）には仁孝天皇即位にともなう大嘗会の悠紀主基屏風を手がけている。禁裏の絵所預をつとめた。

本作は光孚が絵所預にあった時期の大幅で、環境描写を排しつつ、富士山と旭日のみをクローズアップする。紺地の背景に富士山と旭日のみを描く構図は、酒井抱一（1761～1828）筆『絵手鑑』（静嘉堂文庫美術館蔵）中の「富士山図」とも共通する。

富士山と旭日を描く構図は、こののち横山大観（1868～1858）により様式化され、現代にいたるまで日本人の富士山イメージを規定する。

富士と旭日を描く本作は、近世から近現代にいたる富士山絵画のメインストリーム、富士山絵画の定型化、さらに日本人の富士山観を考えるうえで重要な位置を占める作例といえ、「富士山絵画のメインストリーム」「富士山絵画の定型」の研究を遂行するための学術資料として不可欠である。

・「富岳写真」 小泉檀山画 江戸時代後期（1846年）

【作品概要と収集理由】

原図を描いた小泉檀山（1770～1854）は江戸時代後期の神官で画家。寛政7年（1795）富士登頂を果たした立原翠軒（1744～1823）、藤田幽谷（1774～1826）らの一行に加わり登山を行い、その過程を「富岳真状」（東京都立中央図書館図）、「富嶽全図巻」（栃木県立美術館蔵）として残した。

本書は上記登山図を私家版の版本としたもので、出版には弟子の島崎玉淵のほか、儒者の安積良斎（1791～1861）が関与する。本書については、府中市美術館本、東京都立中央図書館本、栃木県立博物館本、東京国立博物館本ほか諸本があり、各本で図の掲載順序や有無に異同があることが指摘されている。

当センター所蔵の最重要資料である谷文晁筆「富士山中真景全図」は、将軍徳川家斉の上覧に備えるため、小泉檀山の登山スケッチを浄書したものである。檀山の登山から家斉上覧、さらに「富岳写真」出版は一連の流れにあるものといえ、江戸時代後期から末期に盛行する富士登山の模様を描いた作品に重要な契機を与えた。そのため檀山系富士登山図のなかに位置づけうる本書は「富士山絵画の定型」、さらに富士登山史の研究を遂行するための学術資料としてセンター収蔵品に不可欠といえる。

- ・「東都名所 日本橋白雨」 初代歌川広重 江戸時代後期（1832～34年）

【作品概要と収集理由】

初代歌川広重（1797～1858）は江戸時代後期に活躍した歌川派の浮世絵師で歌川豊広の門弟。情趣豊かに描いた風景画に秀でる。代表作に保永堂版『東海道五拾三次』、『名所江戸百景』、『富士三十六景』など。『東都名所』は天保3年（1832）から5年にかけて喜鶴堂から刊行された揃物。保永堂版『東海道五拾三次』と近い時期の作品で、広重壮年期を代表する名作。うち「日本橋白雨」は同シリーズ中の代表作で、雨に曇る江戸の町の表情をよく伝える。

同図の構図は『名所江戸百景』ほか初代広重の作品群で繰り返し引用されるとともに、幕末明治期東海道や江戸から眺望した富士山に名作を残した広重の代表作であり、「芸術の源泉」としての世界遺産富士山を検証するセンターには不可欠の作品である。

- ・「四季富士図」 狩野晴川院養信筆 江戸時代後期（1834～46年）

【作品概要と収集理由】

作者の狩野晴川院養信（1796～1846）は江戸時代後期の御用絵師で、木挽町狩野家当主として狩野派一門を統率し、天保度・弘化度には焼失した江戸城西丸・本丸御殿の再建に当たり障壁画制作を統括した。

本作は晴川院養信が法印時代の作品で、墨の滋潤な趣きを生かしつつ四季の富士を描く。滲みを露わにしつつ、諧調豊かに墨の面的効果を生かし、光や大気を表現する手法は、中国南宋の画僧牧谿に淵源し、室町時代以来、日本の水墨画でも好まれた。三峯型の富士山や中幅の櫛歯型による雲は、江戸後期狩野派に顕著なものである。

本作は伝統的な牧谿様が近代へと展開していく分水嶺的な作品で、作者・様式ともにセンターの収集方針「富士山絵画史のメインストリーム」を顕著に示す作例である。

- ・「絵本江戸土産 第五編」 初代歌川広重 江戸時代後期（19世紀）

【作品概要と収集理由】

初代歌川広重（1797～1858）は江戸時代後期に活躍した歌川派の浮世絵師で歌川豊広の門弟。情趣豊かに描いた風景画に秀でる。代表作に保永堂版『東海道五拾三次』、『名所江戸百景』、『富士三十六景』など。『絵本江戸土産』は嘉永3年（1850）から慶応3年（1867）にかけて刊行された絵入りの地誌で、初編から第七編までの挿絵を初代広重、第八編から第十編までの挿絵を二代広重が担当した。同書については、初代広重晩年の揃物の大作『名所江戸百景』との類似が言及されており、五編のうちでは「日本橋」「駿河町」などが構図を通わせる。

本作品は『名所江戸百景』などとの構図の一致から、江戸風景図における富士山、さらにその定型化の過程を考えるうえで、重要な史料となる。よって、富士山イメージの定型化、社会における富士山イメージの史的意義に関する研究を遂行するための学術資料として、センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

- ・「南口村山並大宮ヨリ登山細見絵図」 歌川貞秀 万延元年（1860）

【作品概要と収集理由】

五雲斎貞秀（歌川貞秀、別称・玉蘭斎、俗称・橋本兼次郎〔文化4年（1807）～明治11年（1883）〕は、下総国出身の浮世絵師である。幕末の浮世絵師の代表的な存在のひとり。

本作品は錦絵の大判縦三枚続であるが、縦に続く構図の作品は珍しく、またこの作品自体が横浜美術館（2023年まで休館中）に1点所蔵報告がある他には、類例報告がない。幕末期の表口（大宮・村山口登山道）からの信仰登山の様子を図示した登山案内図である。制作された万延元年は60年に一度の富士山御縁年（庚申縁年）に当たり、表口に登山者を誘致する目的で村山で依頼し、制作したものと思われる。

表口からの景観に絞って描かれている錦絵（大判縦三枚続）の作品自体ほかに知られていないことや、同時期に作られた表口からの信仰登山の様子を図示した刷物の登山案内図に描かれていない施設跡（女性登山の限界点を示す女人堂など）が描かれている点で、歴史資料としての価値も大変高い作品であり、センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「吉原宿田子之浦絵図」 吉野保五郎選 梅壽写 江戸時代（文政年間）

【作品概要と収集理由】

表口（大宮・村山口登山道）を中心に、富士山南麓の巡礼路や周辺の宗教施設、集落、名所旧跡、名物等を描いた肉筆の登山案内図。本作品のほかに、富士山南麓を描いた肉筆の登山案内図はごくわずかし確認されていない。選者である吉野保五郎が文政10年（1827）に開板した刷物「駿州吉原宿絵図」の原画である可能性が高い。

原画と刷物を対比させて分析することで、登山案内図の製作や頒布の実態について検討することが可能となる。センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「富士参詣曼荼羅」 作者不明 江戸時代初期（17～18世紀初め頃か）

【作品概要と収集理由】

本作品は滋賀県甲賀市の個人所蔵の富士参詣曼荼羅図や三重県の伊山文庫所蔵の富士参詣曼荼羅図、奈良県奈良市の矢田原第三農家組合所蔵の富士参詣曼荼羅図と構図がかなり近似している。これらの作品と同じ系統の作品で、江戸時代（17～18世紀）頃に近畿地方の富士講における講の本尊として制作され、年中行事の際に使用していた作品ではないかと考えられる。

西国方面で流行した関東地方とは異なる富士講について研究するための貴重な資料であり、センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「三国第一山之図・富士山體內巡之図」 歌川貞秀 江戸時代後期（①嘉永年間、②安政五年頃か）

【作品概要と収集理由】

歌川貞秀（玉蘭斎貞秀、別称・五雲斎、俗称・橋本兼次郎〔文化4年（1807）～明治11年（1883）〕は、下総国出身の浮世絵師である。幕末の浮世絵師の代表的な存在のひとり。①三国第一山之図は、富士山の五合目から頂上までを俯瞰的に画面全体に表現した構図の作品である。玉蘭斎貞秀が初めて富士登山をした際の体験と思われる文章を画面の中に挿入している。②富士山體內巡之図は、富

土山の噴火の影響で形成された溶岩洞窟の中を人体の内部に見立てる御胎内という信仰があり、この作品は富士山の御胎内（船津胎内）をめぐる体内巡りの信仰を図示している。

歌川貞秀の作品として大変特徴的な俯瞰的な構図で、当時の信仰登山の様子を研究できる大変貴重な資料でありことから、センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「富士山表口正面図」 糍屋安兵衛（版元） 明治時代初期か

【作品概要と収集理由】

版元の糍屋安兵衛は富士宮市内（大宮神田橋）で営業していた宿屋（旅籠）。本作品は表口（大宮・村山口登山道）を中心に、富士山南麓の巡礼路や周辺の宗教施設、集落等を描いた刷物の登山案内図。また本作品は、令和2年度に当センターで購入した肉筆の登山案内図「富士山禪定図・山頂図」のうち、「富士山禪定図」を原画に製作された可能性が高く、肉筆の「富士山禪定図」は、富士登山のために宿泊した宿泊者に掲げて登山の行程を説明したもので、本作品はそれを元に携帯できるように刷物としたものと考えられる。

当センター所蔵「富士山禪定図」と比較することで、その製作や頒布の実態について検討することが可能となる。センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「富士山諸人参詣之図・富士山諸人参詣下山之図」 歌川国輝 江戸時代末期

【作品概要と収集理由】

作者は二代歌川国輝（1830～74）で、幕末期から明治期にかけて活躍した浮世絵師である。①富士山諸人参詣之図は、構図は山頂付近で富士登山を行う人々の姿を数多く描いている。人々の装束（行衣）や笠に注目すると、「砂糖」「たばこ」などの商品名が記されており、登山する人々には当時の物価で高騰している商品名を、下山する人々には下落している商品名を記しており、当時の世相を反映した構図になっている。②富士山諸人参詣下山之図は展示会等でも紹介はなく、①と関連して制作されたものと思われる。構図は山頂付近で、富士登山を行う人々の姿を数多く描いているが、こちらも人々の装束（行衣）や笠に注目すると、商品名が記されており、当時の物価の上下といった世相を反映した構図になっているものと思われる。

当時の富士登山の様子が分かる歴史資料として、大変貴重である。センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「曾我物語図絵」（一括30枚） 歌川広重 江戸時代（弘化年間）

【作品概要と収集理由】

歌川広重は、葛飾北斎と並び称される江戸時代の浮世絵師。建久4年（1193）5月28日、曾我十郎祐成（兄）と曾我五郎時致（弟）の兄弟は、富士の巻狩に乗じて、亡き父の仇である工藤祐経を殺害し、仇討ちを果たす。この事件は、後に『曾我物語』として成立するとともに、謡曲や浄瑠璃、歌舞伎などの芸能の題材となり、江戸時代には「曾我物」として圧倒的な人気を得ることとなる。本作品は、曾我物語を30枚の揃物としてまとめたもので、上部には柳下亭種員が詞書を記す。

富士山周辺地域の史話を題材にした作品の好例であり、富士山が大衆化していくプロセスを示す資料としても重要であり、センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「富士の巻狩・富士川の合戦錦絵一括」 江戸時代後期

【作品概要と収集理由】

内訳は①富士御狩之図、②富士之御狩図、③富士の裾野巻狩之図、④建久四年五月源頼朝公駿州富士野狩ノ図、⑤建久四年五月大將軍源頼朝公富士野牧狩之図、⑥頼朝公富士巻狩之図、⑦源頼朝公富士川之合戦、⑧源頼朝公富士之御狩之図で、作者は①②④⑤歌川芳虎、③歌川芳艶、⑥⑦歌川芳員、⑧歌川貞秀による。源平の合戦の緒戦で、平家滅亡の一端となったとされる富士川の合戦および、鎌倉幕府成立後に將軍の權威を示すために催された富士の巻狩を描いた錦絵。武士たちによる戦いのエピソードや鎌倉をめぐる権力争いは、古くから『平家物語』や『吾妻鏡』などの軍記物によって普及するが、江戸時代には歌舞伎などの芸能の演目の一つとして、人気を博すとともに、浮世絵でも人気の題材となり数多くの作品が作られた。

本作品は富士山周辺地域の史話を題材にした作品の好例であり、富士山が大衆化していくプロセスを示す資料としても重要である。センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「曾我兄弟の仇討ち錦絵一括」 江戸時代後期

【作品概要と収集理由】

内訳は①曾我兄弟十番伐、②曾我十番切ノ図、③曾我兄弟夜討之図、で作者は①歌川芳艶、②歌川芳虎、③歌川芳員である。建久4年（1193）5月28日、曾我十郎祐成（兄）と曾我五郎時致（弟）の兄弟は、富士の巻狩に乗じて、亡き父の仇である工藤祐経を殺害し、仇討ちを果たす。この事件は、後に『曾我物語』として成立するとともに、謡曲や浄瑠璃、歌舞伎などの芸能の題材となり、江戸時代には「曾我物」として圧倒的な人気を得ることとなる。本作品は、第五郎が源頼朝の寝所に侵入し、工藤祐経を討ち取る場面および、兄十郎が仁田四郎忠常と戦う場面を描く。

本作品は富士山周辺地域の史話を題材にした作品の好例であり、富士山が大衆化していくプロセスを示す資料としても重要である。センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「業平東下り之図」 歌川広重 江戸時代後期

【作品概要と収集理由】

佐野喜版、初代歌川広重（1757～1858）の作品か。『伊勢物語』第九段の在原業平の「東下り」富士山の一節を描く。在原業平の一行が都から東国へ下る途中、富士山の麓を馬に乗って進む場面である。

東海道から眺望した富士山の名作を多く残した歌川広重に関する作品であり、「芸術の源泉」としての世界遺産富士山を検証する上で、大変貴重であることから、センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「東海道富士山眺望之図」 歌川芳宗 江戸時代末期（1863年）

【作品概要と収集理由】

歌川芳宗（1817～80）は江戸時代末期から明治にかけて活躍した歌川派の浮世絵師で歌川国芳の門弟。彩色にすぐれ、師の作品の色差しも行った。武者絵のほか役者絵、美人画、また将軍上洛に取材した作品などを残す。

本作品は兵卒を従え、孝明天皇に拝謁するため東海道を西上し上洛する14代将軍徳川家茂の姿を描く。原から吉原の浮島ヶ原に聳え立つ富士山を背景にした構図をとる。愛鷹山から姿を表す富士山は定型となり、江戸時代後期以来多くの浮世絵師により絵画化された。将軍（ないしは江戸城）と富士山に東照大権現の化身たる鶴を合わせる構図は、将軍権威の浮上が期待された幕末期にしばしば描かれた構図で、将軍権威を補完する文化装置としての富士山イメージをよく示す。家茂の上洛については、『御上洛東海道』や『末広五十三次』などの揃物が出板されたほか、本作のような三枚続も刊行された。うち本作は富士山と将軍、鶴の一体化を顕著に表すものであり、幕末明治期における富士山イメージのポリティカルな側面をよく示す。

よって、社会における富士山イメージの史的意義に関する研究を遂行するための学術資料として、センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「東海道薩陀峠之景」 歌川貞秀 江戸時代末期（1863年）

【作品概要と収集理由】

歌川貞秀（1817～80）は江戸時代末期から明治にかけて活躍した歌川派の浮世絵師で初代歌川国貞（三代豊国）の門弟。横浜など開港都市を描いた作品に加え、富士登山に取材した三枚続も描ける。鳥瞰的構図によりパノラミックな景観を把握した風景画に秀で、近年展覧会が行われるなど人気を集めている画家である。本作品は、兵卒を従え、孝明天皇に拝謁するため東海道を西上し上洛する14代将軍徳川家茂の姿を描く。構図は由比の周辺、薩埵峠を越え、江尻、府中へ向かう家茂一行について、薩埵嶺を東側から捉え、清水湊を遠く俯瞰するもので、鳥瞰図を得意とした貞秀の本領が発揮された作品といえる。またデフォルメされた構図で、背後にあるはずの富士を前方に据え、家茂の身体と富士山、鶴をあえて一画面のうちに収めている。

当センターでは貞秀をはじめ幕末明治期の浮世絵師による富士山図を多く収集しつつあり、そのなかで本作品は重点的な資料となる。よって、富士山イメージの定型化、社会における富士山イメージの史的意義に関する研究を遂行するための学術資料として、センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「絵画」に合致する。

・「四季富士山蒔絵手焙」「梶川」款 江戸時代

【作品概要と収集理由】

「梶川作」の銘と壺型の朱印があり、江戸幕府に代々蒔絵御用として仕えていた梶川家による作品と考えられる。手焙（てあぶり）は、手をあぶる（火で暖める）ために使用する小型の火鉢のことで、中に炭を入れて用いた。本作は、四角い形の手焙のそれぞれの面に四季の富士山を描く。春は三保の松原と桜、夏は松の林と雲と麓の山々、冬は三保の松原と帆掛け船が描かれるが、もっとも美しいの

は秋で、川岸に建つ茅屋と雁の群れ、そして赤く色づいた紅葉の木々が、雪をいただき静かに佇む富士山を引き立てている。百人一首のかれたを手焙全体に散らすデザインもなされていて、山辺赤人の「田子の浦にうちいでてみれば白妙の富士の高嶺に雪はふりつつ」や、小野小町、陽成院などの歌のかれた、歌仙絵も散らされていて、高貴な女性や豪商の子女などが用いたことが想像される作品である。

富士山を題材とした芸術作品として、「芸術の源泉」としての世界遺産富士山を検証する上で、大変貴重であることから、センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「工芸」に合致する。

○寄贈受入資料一覧

No.	ジャンル	資料名
1	歴史資料	富士山絵葉書（平川コレクション）

・「富士山絵葉書（平川コレクション）」 明治33年（1900）～昭和初期

【作品概要と収集理由】

本資料群は、日本屈指の絵葉書コレクターである平川義浩氏（兵庫県宝塚市在住）の所蔵品のうち、富士山を題材にした絵葉書のコレクション（1,394点）である。そのコレクションは私製葉書の発行が認められた明治33年（1900）から昭和初期にかけて制作されたもので、そのジャンルは富士山の写真や絵画を印刷した、いわゆる風景絵葉書にとどまらず、富士山を様々な形で意匠化し、広告や宣伝、プロパガンダ、芸術活動などに用いられた美術絵葉書にも及んでいるという点において、他に例を見ない資料群である。この資料群のうちの一部（450点）デジタルデータはすでに、当センターの「静岡県富士山資料デジタルアーカイブ」において公開されている。

本資料群は、富士山の象徴性や通俗性を考えるうえで重要な資料群であるとともに、既存のデジタルデータに加えて、新たに実物資料を受け入れることで、さらなる研究や展示等の活用に資することができる。よって、「象徴としての富士山」に関する研究や活用を遂行するための学術資料として、センター資料収集方針収集対象及び分野の「イ 富士山学を構成する諸分野の研究を遂行する上で基礎となる貴重な学術資料」における「歴史資料」に合致する。

3 施設・組織・予算

3-1 施設

1 建物概要

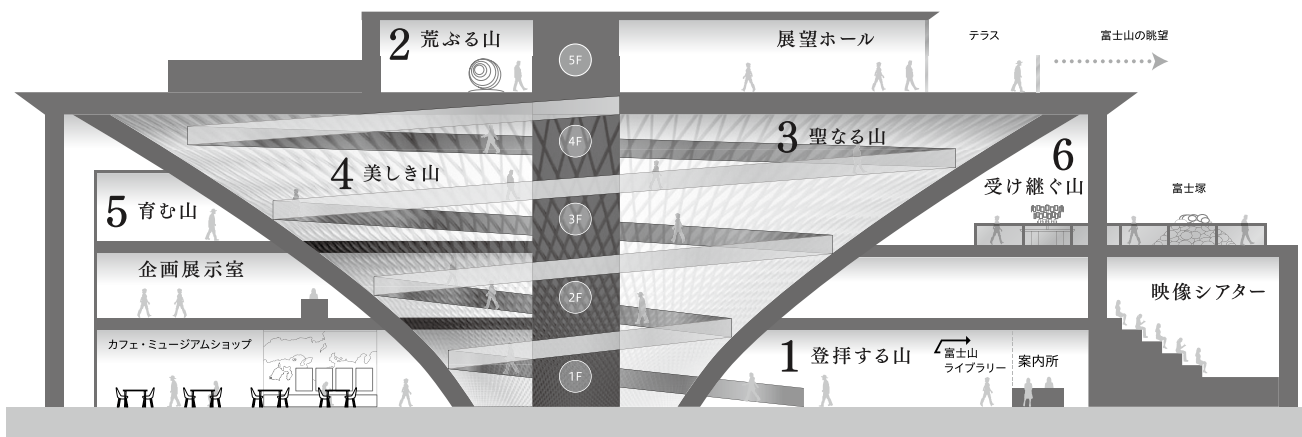
名 称	静岡県富士山世界遺産センター Mt.FUJI WORLD HERITAGE CENTRE, SHIZUOKA
敷地面積	6,086.7㎡
延床面積	3438.45㎡
構 造	鉄骨造（5階建て）
設 計	株式会社坂茂建築設計
施 工	建 築 佐藤工業・若杉組特定建設工事共同企業体 電 気 住友・三和特定建設工事共同企業体 機 械 須賀・遠藤特定建設工事共同企業体 防音壁 株式会社若杉組 収蔵庫 金剛株式会社 外 構 佐藤工業株式会社静岡営業所 さく井 土屋産業株式会社 サイン 株式会社若杉組
展示設計・施工	株式会社丹青社
西棟左官造作・富士塚制作	挾土 秀平（職人社 秀平組）
スロープ壁面描画	島倉 二千六（アトリエ雲）

富士ヒノキの木格子の外壁を持つ建物は「逆さ富士」を表現し、前面の水盤に映り込むと「富士山」の姿が現れる。水面に映る富士山は、内部に豊富な湧水をたたえた「水の山」としての富士山を象徴的に表している。

富士山の湧水を館内に取り込み、空調熱源として利用した後、水盤に利用し、富士の水の循環を建築的にも表現している。



2 フロアマップ



この施設では、スロープを上りながら富士登山を感じ、本物の富士山に出会い、世界遺産「富士山」について学ぶ、「富士山」を満喫する体験を提供している。

展示については、「富士山の総合的、学際的、国際的な研究活動を展開していく中で、各コーナーが有機的につながりあう展示」「世界からの来館者を感化する展示」をテーマとしている。

3 施設概要

所在地 静岡県富士宮市宮町5-12

TEL 0544-21-3776

F A X 0544-23-6800

営業時間 9 : 00~17 : 00

(7、8月は～18:00、
最終入館は閉館の30分前)

休館日 毎月第3火曜日、施設点検日

観覧料 300円（団体割引あり）

15歳未満、70歳以上、学生、障害者等は無料（要証明）

企画展は別途料金を設定

アクセス JR身延線富士宮駅から徒歩8分

新東名高速道路新富士ICから約10分

東名高速道路富士ICから約15分



4 水盤進入防止柵設置工事概要

センターのエントランス付近には展示棟を映すための水盤があるが、水盤周りには意匠上の理由で据え付け型の柵等の囲いをしていなかったため、雨天時は通路が濡れることで通路面の色が水盤面の色と見分けがつかなくなり、来館者が水盤に気づかず誤進入するケースが後を絶たず、水盤内で転倒し衣服を濡らすこともあった。

進入防止対策として、降雨が予想される時にはカラーコーン設置等により注意喚起していたが、誤進入は完全にはなくならなかったため、誤進入及びそれに伴う転倒事故防止のため、水盤外周に低柵を設置する工事を行った。

- ・工事期間 2023年1月17日～2023年3月9日
- ・工事前後写真

工事前



雨天時（雨の予報の場合は事前に準備）
水盤東側及び北側にコーンとバーを設置



晴天時
水盤東側のみ コーンを5基設置

工事後



雨天時（水盤と通路面の境目が明確に）



晴天時

3-2 組織

1 組織図・職員（2022年度）

〈組織図〉

館長（非常勤）

副館長 ————— 企画総務課長 ————— 課員 8 人

課長	1 人
班長	1 人
主幹	1 人
主査	1 人
主任	2 人
主事	3 人

————— 学芸課長 ————— 課員 4 人

教授兼課長	1 人
教授	2 人
准教授	2 人

職員数 計 15人

（その他会計年度任用職員）

館長 遠山 敦子

〈職員〉

副館長 滝 正晴

企画総務課長 川口 智弘

企画総務班長 赤池 勇治

企画総務課主任 野村 晋一

企画総務課主任 土谷 周平

企画総務課主事 久保田有輝

企画総務課主事 荒木 玲美

企画総務課主事 芹澤 美緒

企画総務課主幹 山崎 喜之

企画総務課主査 長嶋 昌和

学芸課長兼教授 松島 仁

学芸課教授 小林 淳

学芸課教授 大高 康正

学芸課准教授 田代 一葉

学芸課准教授 井上 卓哉

会計年度任用職員 渡邊 敦美

鈴木 綾音

山崎 香織

職 名	人数
会計年度任用職員	3 人

3-3 予算

1 富士山世界遺産センター管理運営事業費（2022年度）

歳出の部

(単位：千円)

項 目		予算額 (当初)	決算額	内 容
究める	調査研究	10,686	7,406	巡礼路調査、分野別研究
	資料収集	11,635	10,376	収蔵品購入
伝える・交わる	教育普及	5,024	3,322	世界遺産セミナー、館内講座、出前講座の実施
	展 示	39,921	38,573	常設展示の更新、企画展の開催
	情報発信	10,058	8,581	ホームページ、ニュースレター等様々な情報発信
守る	人材養成	55	2	世界遺産ガイドのスキルアップ講座
維持管理		128,294	133,080	光熱水費、接遇スタッフ、設備運転、清掃、定期点検 ほか
事 務 費		21,344	20,453	非常勤職員人件費、消耗品費、印刷費、職員旅費 ほか
歳 出 計		227,017	221,793	

歳入の部

(単位：千円)

項 目	予算額 (当初)	決算額	内 容
観覧料収入	38,794	20,202	常設展観覧料、特別展観覧料
その他収入	12,774	9,394	物品貸付料、図書売払収入等
一 般 財 源	175,449	192,197	
歳 入 計	227,017	221,793	

4 資 料

4-1 来館者数データ

2022年度月間来館者数推移

(単位：人)

年	月日	全体	観覧券発券数						
			一般	団体	小人	学生	高齢者	その他	計
2022	4月計	7,318	4,159	270	604	776	853	312	6,974
2022	5月計	12,625	6,272	68	3,347	871	1,184	553	12,295
2022	6月計	6,391	2,947	346	1,033	829	840	239	6,234
2022	7月計	7,851	4,695	85	1,518	238	709	313	7,558
2022	8月計	12,616	6,917	181	2,086	970	658	1,321	12,133
2022	9月計	9,179	4,576	369	1,984	748	848	393	8,918
2022	10月計	10,841	5,261	400	2,215	652	1,422	592	10,542
2022	11月計	11,291	5,028	612	2,235	625	1,820	611	10,931
2022	12月計	5,948	3,159	318	886	434	712	250	5,759
2023	1月計	11,432	6,607	261	1,250	438	1,704	365	10,625
2023	2月計	9,820	4,244	399	462	694	1,713	2,166	9,678
2023	3月計	15,672	7,715	1,671	1,681	1,094	2,585	489	15,235
2022年度累計		120,984	61,580	4,980	19,301	8,369	15,048	7,604	116,882

4-2 2022年度の休館日

2022年度の休館日は、毎月第三火曜日、施設点検日、年末年始のほか、静岡県富士山世界遺産センター開館5周年記念式典・コンサート開催に伴う臨時休館を含め、以下のとおりである。

〈毎月第三火曜日〉 4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、8月16日、9月20日、10月18日、
11月15日、12月20日、1月17日、2月21日、3月22日

〈施設点検日〉 6月6～10日、12月5～9日

〈年末年始〉 12月27日～12月31日

〈その他〉 12月13日 ※開館5周年記念式典・コンサート開催に伴う臨時休館

4-3 新型コロナウイルス感染症対策

1 概 要

静岡県富士山世界遺産センターは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2020年度から継続して、来館者が安全安心に鑑賞できる展示環境を確保するための各種感染対策を実施するとともに、遠隔地在住者など来館が困難な人に対しても、疑似展示鑑賞体験を提供できるよう、デジタルコンテンツ等を配信した。

対 策	目 的	内 容
入館時の検温	館内衛生対策	メインエントランスにサーモグラフィを設置。
館内各所への消毒液の設置	館内衛生対策	メインエントランスや各展示フロア等に消毒液を設置。
入館制限	館内密集対策	同一時間帯の館内の入場者数の制限を設定。
シアター座席制限	館内密集対策	映像シアターの座席の利用を制限。
企画展示室入場人数制限	館内密集対策	同一時間帯の企画展示室の入場者数の制限を設置。
デジタルコンテンツの充実	遠隔地での観覧及び来館意欲の醸成	【V R 富士山世界遺産センター】 館内の展示フロアの疑似観覧が楽しめるV R方式の3 Dマップを公式H Pに掲載。 【センター紹介P V】 ドローンで空撮したセンター外観映像や館内展示のタイムラプス映像等を公式H Pで紹介。 【富士山ライブカメラ】 展望ホールから富士山を撮影するカメラを設置し、当該カメラにて撮影した映像をライブ・アーカイブにて公式H P等で配信。
公開講座等のWeb配信	遠隔地での受講及び受講者の密集回避	公開講座等の館内イベントを、公式YouTubeでライブ配信。
事前予約システムの導入	館内混雑回避及び来館者の利便性向上	Web上での予約が可能な、団体観覧者（学校団体含む）及びイベント参加者対象の観覧及びイベント参加予約システムを構築。
スマホ音声ガイドの改修	タッチパネルによる感染リスクの軽減	現行の音声ガイドのシステムを利用した、来館者のスマートフォンでの常設展示タッチパネル内容解説システム等を構築。
モニターへの抗菌シート装着	タッチパネルによる感染リスクの軽減	現行タッチパネルに抗菌シートを設置。

【検温】



【消毒液の設置】



【VR富士山世界遺産センター】



【センター紹介PV】



【富士山ライブカメラ】



【音声ガイドシステム】



【団体観覧事前予約システム】



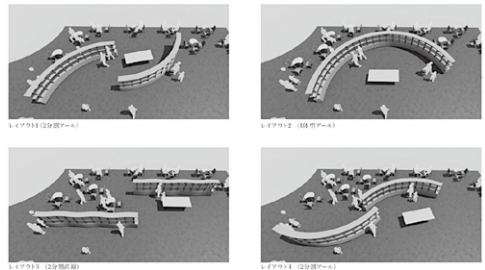
4-4 ミュージアムショップ・カフェリニューアル

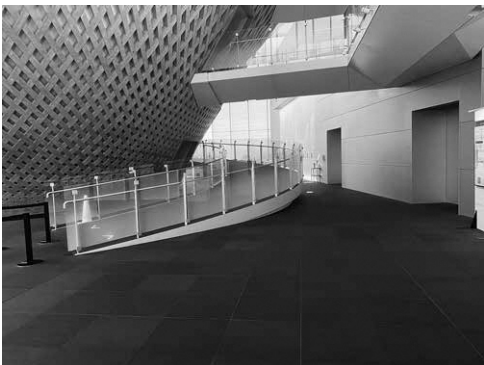
1 概要

静岡県富士山世界遺産センターでは、来館の記念やお土産としての富士山グッズ等を販売するミュージアムショップや富士山の恵みがもたらす食材を使用したメニューを提供するカフェを設置している。2022年4月に、ミュージアムショップ・カフェをこれまで以上に「楽しみ」や「賑わい」を感じられる空間とするため、模様替えと商品の充実等によるリニューアルを実施した。

2 リニューアル内容

(1) 空間の模様替え

	リニューアル前	リニューアル後
ショップ棚の変更	【課題】 ・棚が空間に馴染んでしまい、来館者がショップエリアと認識しにくい。 ・棚の仕様上、レイアウト変更してもあまり代わり映えしない ・ショップ商品販売面積が少ない（約9㎡）  白を基調としたスタイリッシュな平台 (縦・横60cm、高さ80cm)	【課題への対応】 ・木材の使用と棚の高さを高くしたことで、遠目からでも目を引く空間に ・棚でカフェとショップエリアを分けることで、ゆったりと滞在できる空間に ・連結方法を変更することで、多様なショップ空間を創出可能に ・棚を増やし、2段にしたことで販売面積増加（約16㎡）   ・県産材「フジヒノキ」を使用し、素材を活かした温かみのある空間に ・1台1台の棚が緩やかな弧を描く

	リニューアル前	リニューアル後
トレイ返却棚の新設	【課題】 会計と食器返却口が同一で雑然としている 	【課題への対応】 トレイ返却棚を会計レジ横に設置し、「会計」と「返却」の動線を明確に 
案内サインの追加	【課題】 ショップ・カフェの場所及び会計レジが分かりづらいという意見多  	【課題への対応】 ・アトリウム（研修室前）にミュージアムショップ・カフェの案内サイン追加 ・会計レジ上に「¥」マークの常設サインを追加（今までは仮設の紙サインのみ）  

（２）商品の充実

富士山の恵みがもたらす地元食材を使用したオリジナルメニュー等を充実した。

主な新メニュー等は以下のとおり。今後も随時新メニューを開発・提供を行っていく。



富士山さのバーガー抹茶味噌ソースあえ(富士朝霧牛)
地元富士宮市の精肉店「さの萬」の富士朝霧牛を使用したハンバーガー



富士山いただきます！
地元富士宮市のカフェ「土井ファーム」のジェラート・パンを使用したスイーツ



3D富士山チョコレート
国土地理院による測量データに基づく3Dデータから作成した富士山型のチョコレート



富士山の恵みのチーズケーキ
富士市のチーズケーキ専門店「Poli Poli」のチーズケーキをセンター特別ギフトセットで販売

4-5 公式オリジナルグッズ

1 概要

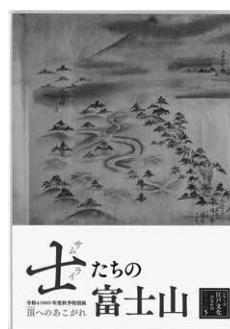
静岡県富士山世界遺産センターでは、観覧の記念やお土産として持ち帰って楽しんでもいただけるよう、当センターオリジナルのグッズ制作・販売を行っている。令和4年度は、計2点のオリジナルグッズを制作し、合計して20点のオリジナルグッズを、当センターミュージアムショップにて販売した。

2 オリジナルグッズ一覧（令和5年3月31日現在）

No	商品名	内容	販売開始時期
1	富士山世界遺産センター クリアファイル	当センターの特徴的な建築物と富士山をプリントしたクリアファイル	平成29年12月
2	富士山世界遺産センター ポストカード（4種）	当センターの特徴的な建築物や富士山をプリントしたポストカード	平成29年12月

No	商 品 名	内 容	販売開始時期
3	正統展図録	平成30年度秋季特別展図録	平成30年 9 月※
4	富士山巡礼路須走口報告書	富士山須走口登山道の調査成果をまとめた報告書	平成30年※
5	富士すがた	当センター建築物の形を模したオリジナル最中	平成30年
6	谷文晁展図録	令和元年度冬季特別展図録	令和元年12月※
7	公式ハンドブック	当センター常設展の図録	令和 2 年 6 月
8	富士ひのき コースター	当センター建築物に使用されている富士ひのきを活用したコースター	令和 2 年 8 月
9	富士ひのき スマホスタンド	当センター建築物に使用されている富士ひのきを活用したスマホスタンド兼ペン立て	令和 2 年 8 月
10	富士ひのき フォトフレーム	当センター建築物に使用されている富士ひのきを活用したフォトフレーム	令和 2 年 9 月
11	ハイブリッド狩野派展図録	令和 2 年度秋季特別展図録	令和 2 年10月
12	ポップアップメモ	当センターの特徴的な建築物と富士山をプリントしたメモ帳	令和 2 年12月
13	マグネットクリップ	当センターオリジナルふじっぴーをプリントしたマグネットクリップ	令和 2 年12月
14	富士山巡礼路大宮・村山口報告書	富士山大宮・村山口登山道の調査成果をまとめた報告書	令和 3 年 4 月
15	富士山表口の歴史と信仰展図録	令和 3 年度富士宮市共催展図録	令和 3 年 7 月
16	家康+富士山展図録	令和 3 年度秋季特別展図録	令和 3 年10月
17	富士三保清見寺図屏風 一筆箋	センター所蔵品の屏風を用いた一筆箋。	令和 3 年10月
18	富士三保清見寺図屏風 クリアファイル	センター所蔵品の屏風を用いたクリアファイル	令和 3 年10月
19	士たちの富士山展図録	令和 4 年度秋季特別展図録	令和 4 年10月
20	谷文晁 富士山真景全図（1795年）ポストカード 2 種	センター所蔵品の絵画を用いたポストカード	令和 4 年10月

※ 3、4、6 の商品は、令和 2 年 6 月に受付での販売からミュージアムショップでの販売へ変更した。



4-6 報道実績

1 概 要

静岡県富士山世界遺産センターは開館から5年目を迎え、施設紹介や企画展開催などの内容は継続して、新聞報道や県内ニュースや情報番組によるテレビ報道、旅行雑誌など多方面にて紹介されてきた。

特に、開館5周年記念事業は、新聞やテレビで大きく取り上げられ、広く報道された。

報道実績一覧表【センター独自集計による】

	新聞	テレビ (県内ニュース)	テレビ (その他)	雑誌	合計
2022年4月	1	3	0	1	5
2022年5月	1	0	0	0	1
2022年6月	3	0	0	2	5
2022年7月	1	0	1	1	3
2022年8月	1	1	0	1	3
2022年9月	0	1	1	0	2
2022年10月	2	1	0	2	5
2022年11月	1	1	0	0	2
2022年12月	4	1	0	0	5
2023年1月	2	1	0	1	4
2023年2月	3	3	0	0	6
2023年3月	0	2	1	2	5
合計	19	14	3	10	46

※テレビ（その他）は、県内ニュースを除く県内情報番組及び全国番組での放映回数

テークカットを行う遠山館長
(左) 富士市の県富士山
世界遺産センター

ショップ・カフェ

富士山世界遺産センター

新装オープン

富士市の県富士山世界遺産センター内ミニシアムショップ・カフェが8月、リニューアルオープンした。同センターが今年5周年を迎えるのを前に、同センターを一新し、新メニューやグッズを多数取りそろえた。

コンセプトは「楽しむ空間」にあり、富士山をテーマにした商品を取りそろえた。また、富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。同センターは、富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。同センターは、富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。

新メニューやグッズも
にぎわい空間演出

富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。同センターは、富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。

2022年4月9日 静岡新聞

富士山と武家の関係ひもとく

清見寺の宝物一堂

世界遺産センターで特別展

富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。同センターは、富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。

富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。同センターは、富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。

2022年10月1日
静岡新聞

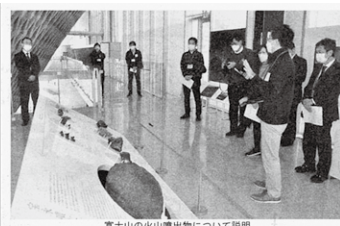
富士山の価値 次世代に

世界遺産センター5周年で式典

富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。同センターは、富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。

富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。同センターは、富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。

2022年12月14日 静岡新聞



富士山の火山噴出物について説明

開館5周年で企画展開幕

「博士の愛した富士山」展

富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。同センターは、富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。

富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。同センターは、富士山の歴史や文化に関する展示も充実している。



開館5周年の歩み祝福

県富士山世界遺産センター

記念式典 クラシック音楽演奏



式典であいさつする遠山館長

2022年12月15日
岳南朝日新聞



展示品

2022年12月24日 岳南朝日新聞

4-7 来館者アンケート結果

1 概 要

来館者の動向、評価等をモニタリングするためアンケートを実施した。

2 実施結果

(1) 第一回

・日本語によるアンケート

○来館日 平成30年1月29日～2月12日
15日間（平日10日間・土日休日5日間）

○総人数 420人（男191人・女229人）

・英語によるアンケート

○来館日 平成30年5月8日～5月31日
24日間（平日18日間・土日休日6日間）

○総人数 68人（男43人・女25人）

(2) 第二回（日本語・英語によるアンケートを実施）

○来館日 平成30年9月20日～11月13日
54日間（平日36日間・土日休日18日間）

○総人数 436人（男202人・女234人）

(3) 第三回（日本語・英語によるアンケートを実施）

○来館日 令和元年10月1日～11月30日
59日間（平日40日間・土日休日19日間）

○総人数 167人（男 85人・女 80人）

(4) 第四回（日本語によるアンケートを実施）

○来館日 令和2年10月1日～11月30日
59日間（平日40日間・土日休日19日間）

○総人数 103人（男 57人・女 46人）

(5) 第五回（日本語によるアンケートを実施）

○来館日 令和3年11月1日～12月26日
51日間（平日33日間・土日休日18日間）

○総人数 118人（男 62人・女 56人）

(6) 第六回（日本語によるアンケートを実施）

○来館日 令和4年10月25日～12月26日
55日間（平日35日間・土日休日20日間）
○総人数 418人（男 191人・女 225人・回答しない 2人）

* 第一回から第五回までは紙で、第六回は来館者のスマートフォンで二次元コードを読み取っていた

き、グーグルフォームによりアンケートを実施した（スマートフォンをお持ちでない方には紙アンケートを提供した）。

3 各回比較結果

○年齢構成

50代の割合が増えた一方、70代以上が減少したのは、集計方法の変更による影響が考えられる。

	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
第一回	15%	5 %	4 %	9 %	19%	24%	24%
第二回	17%	7 %	5 %	10%	5 %	29%	28%
第三回	20%	4 %	5 %	8 %	14%	24%	25%
第四回	31%	6 %	3 %	8 %	14%	21%	17%
第五回	23%	9 %	6 %	11%	16%	14%	19%
第六回	23%	7 %	11%	19%	24%	13%	3 %

○居住地の区分

新型コロナウイルス感染症も落ち着きをみせてきたことと、後述するとおり来館回数1回が8割以上を占めることから、県外からの来館割合が増加したと考えられる。

	国外	県外	県西部	県中部	県東部	内地元二市
第一回	—	17%	8%	28%	47%	(26%)
第二回	8 %	31%	13%	20%	28%	(17%)
第三回	13%	45%	3 %	14%	24%	(14%)
第四回	—	55%	10%	18%	15%	(8 %)
第五回	—	42%	24%	16%	17%	(15%)
第六回	—	75%	6 %	8 %	11%	—

・県外の内訳

関西地方からの割合が急増したのは、京都府からの修学旅行生が一度に多数回答したためである。それを除いて考えても、関東地方の割合が多い傾向や、愛知県を含む東海地方からの来館も堅調である。

	北海道・東北	関東	東海	北陸甲信	関西	中国・四国	九州
第一回	4 %	48%	26%	4 %	7 %	6 %	4 %
第二回	1 %	53%	16%	11%	13%	7 %	0 %

	北海道・東北	関東	東海	北陸甲信	関西	中国・四国	九州
第三回	1 %	44%	20%	15%	11%	4 %	5 %
第四回	—	51%	30%	4 %	14%	—	2 %
第五回	4 %	43%	18%	16%	14%	0 %	4 %
第六回	1 %	32%	19%	4 %	42%	1 %	1 %

県別上位 京都府25% 愛知県16% 東京都11% 大阪7%

○センターまでの交通手段（複数回答可）

質問項目や回答数を変更したが、自家用車での来館割合が最も高い。

	新幹線	在来線	路線バス	観光バス	車	徒歩	航空機
第一回	4 %	10%	0 %	5 %	78%	6 %	1 %
第二回	6 %	11%	4 %	29%	52%	6 %	4 %
第三回	11%	19%	4 %	26%	42%	6 %	13%
第四回	7 %	15%	3 %	14%	54%	6 %	2 %
第五回	8 %	10%	2 %	11%	63%	6 %	0 %

（回答を1つに変更）

	新幹線・在来線	路線バス	観光バス	自家用車	徒歩	航空機
第六回	21%	2 %	13%	58%	4 %	2 %

○来館回数

初めての来館割合が引き続き高い一方、4回を超える来館が4 %存在する。

	初めて	2回目	3回以上
第二回	89%	8%	3%
第三回	84%	10%	6%
第四回	86%	7%	6%
第五回	77%	8%	14%

（回答項目を変更）

	初めて	2～3回	4～5回	6回以上
第六回	87%	9 %	2 %	2 %

○センターの認知（複数回答可）

ネット（インターネット）による認知が増加しているが、中でもセンター公式ホームページの寄与度が30%と高い。また、センター以外のウェブサイトも11%ある一方、公式フェイスブック・インスタグラム・ツイッターの割合は高くない。他に、知人からの口コミの割合も引き続き高い。

	新聞	雑誌	ネット	テレビ	ラジオ	知人	その他
第一回	41%	7 %	13%	45%	4 %	20%	13%
第二回	25%	9 %	14%	36%	3 %	25%	15%
第三回	15%	16%	17%	30%	3 %	25%	14%
第四回	12%	7 %	25%	22%	2 %	17%	15%
第五回	10%	10%	22%	19%	1 %	20%	18%
第六回	3 %	10%	45%	11%	1 %	24%	25%

○来館構成

団体の比率が回復傾向にあるが、家族での来館が過半を占める状況が続いている。

	一人	家族	友人グループ	団体	その他
第一回	12%	63%	19%	6 %	—
第二回	12%	46%	15%	27%	—
第三回	11%	46%	22%	21%	—
第四回	17%	53%	12%	17%	—
第五回	18%	50%	23%	8 %	—
第六回	16%	54%	12%	16%	2 %

○今回は県内に御宿泊の予定はありますか。

第三回以降、県内に宿泊する来館者が一定程度、存在する傾向が続いている。

	有	無
第一回	11%	89%
第二回	24%	76%
第三回	31%	69%
第四回	46%	52%
第五回	35%	63%
第六回	38%	62%

○他の立ち寄り場所（複数回答可）

センターから徒歩圏内の浅間大社の比率は変わらず高いほか、今回新たに回答項目として追加した地元グルメのやきそばと組み合わせての来訪も3割あった。

	浅間大社	白糸の滝	朝霧高原	富士宮 やきそばの店	その他
第三回	55%	27%	16%	—	10%
第四回	42%	29%	9%	—	20%
第五回	50%	17%	19%	—	15%
第六回	67%	17%	10%	28%	34%

○センターの滞在時間

来館者の多くが30分から1時間半の滞在となっている。

	30分未満	30分～ 1時間	1時間～ 1時間半未満	1時間～ 2時間未満	2時間以上
第六回	8%	54%	25%	9%	4%

○センターを訪れた理由（複数回答可）

4位は世界遺産に興味があったからで12.9%、5位は利用したツアーの行程に組み込まれていたからで10.8%、6位は家族、友人に誘われたためで9.1%であった。

	1位	2位	3位
第六回	富士山に興味があったから 53.8%	建物や外観に興味があったから 33.0%	常設展示に興味があったから 28.2%

○今回の訪問で最も印象に残ったもの

4位はセンターの建物や外観で8.1%、5位は美しき山で4.5%、6位は聖なる山で4.3%と続いた。

	1位	2位	3位
第六回	登拝する山 35%	展望ホールから見た富士山 20%	映像シアター 16%

4-8 施設管理条例・規則

○静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例

平成29年10月24日

条例第35号

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 世界遺産富士山（静岡県世界遺産富士山基本条例（平成27年静岡県条例第31号）第2条第1号に規定する世界遺産富士山をいう。以下同じ。）の有する顕著な普遍的価値（同条第3号に規定する顕著な普遍的価値をいう。）についての県民の理解を深めることにより、当該顕著な普遍的価値を後世に引き継ぐこと及び県民文化の向上に寄与することを目的として、静岡県富士山世界遺産センター（以下「センター」という。）を富士宮市に設置する。

(開館時間)

第3条 センターの開館時間は、午前9時から午後5時まで（7月及び8月にあっては、午前9時から午後6時まで）とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(休館日)

第4条 センターの休館日は、次のとおりとする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、臨時に開館し、又は休館することができる。

- (1) 毎月の第3火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い日曜日、土曜日又は同法に規定する休日でない日）
- (2) 12月27日から翌年の1月3日までの日

(観覧料)

第5条 センターに展示されている世界遺産富士山に関する資料等を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第6条 知事は、センターに収蔵されている世界遺産富士山に関する資料等について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該資料等の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の規定による承認には、センターの管理のために必要な限度において条件を付することができる。

（特別観覧料）

第7条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

（観覧料等の減免）

第8条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は特別観覧料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

（観覧料等の不還付）

第9条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（委任）

第10条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、平成29年12月23日から施行する。

別表第1（第5条関係）

(1) 常設展示

利用区分	観覧料
個人	300円
団体	1人につき 200円

備考

1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。

2 団体とは、20人以上をいう。

3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減免することができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第2（第7条関係）

利用区分	特別観覧料
模写	1点1日につき 2,000円
模造	1点1日につき 2,000円
撮影	1点1回につき 4,000円
熟覧	1点1日につき 1,000円
原板使用	1点1回につき 3,000円

○静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

平成29年10月24日

規則第41号

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに公布する。

静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

（趣旨）

第1条 この規則は、静岡県富士山世界遺産センターの設置、管理及び使用料に関する条例（平成29年静岡県条例第35号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（入館時間）

第2条 静岡県富士山世界遺産センター（以下「センター」という。）の入館時間は、午前9時から午後4時30分まで（7月及び8月にあっては午前9時から午後5時30分まで）とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

（観覧手続）

第3条 常設展示又は企画展示（以下「常設展示等」という。）を観覧しようとする者は、条例第5条の観覧料（以下「観覧料」という。）を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、知事が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

（特別観覧手続）

第4条 条例第6条第1項に規定する特別観覧（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（観覧料等の減免）

第5条 条例第8条の規定による観覧料等（同条に規定する観覧料等をいう。以下同じ。）の減免（以下「観覧料等の減免」という。）は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免

する額は、当該各号に定める額とする。

- (1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者（以下「障害者」という。）が常設展示等を観覧するとき 観覧料の全額
 - (2) 障害者が常設展示等を観覧するときに現に付き添って介護を行っている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示等を観覧するとき 観覧料の全額
 - (3) 70歳以上の者が常設展示を観覧するとき 観覧料の全額
 - (4) 70歳以上の者が企画展示を観覧するとき 観覧料の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）
 - (5) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は大学の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として幼児、児童、生徒、学生等が企画展示を観覧するとき 観覧料の全額
 - (6) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は大学の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものを含む。）として常設展示等を観覧する幼児、児童、生徒、学生等を引率する者が常設展示等を観覧するとき 観覧料の全額
 - (7) その他知事が特別の理由があると認めるとき 知事が別に定める額
- 2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第2号による観覧料等減免承認申請書を知事に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までのいずれかに該当するとき、又は前項第7号に該当する場合であって知事がその必要がないと認めるときは、この限りでない。
- 3 知事は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（観覧料等の還付）

第6条 条例第9条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

- (1) 観覧又は特別観覧をしようとする者の責めに帰することができない理由により観覧又は特別観覧ができなくなったとき。
 - (2) その他知事が必要と認めるとき。
- 2 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧券を知事に提出しなければならない。
- 3 条例第7条の特別観覧料（以下「特別観覧料」という。）の還付を受けようとする者は、様式第3号による特別観覧料還付申請書を知事に提出しなければならない。ただし、第1項第1号に掲げる場合は、この限りでない。

（委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、センターの長が別に定める。

附 則

この規則は、平成29年12月23日から施行する。

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

静岡県富士山世界遺産センター 年報2022.4－2023.3

2023年9月発行

編集・発行 静岡県富士山世界遺産センター

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町5-12

T E L 0544-21-3776

F A X 0544-23-6800

印 刷 文光堂印刷株式会社



静岡県富士山世界遺産センター